第２章　原本調査

[1] 2006 年 9 月徳島大学・高知市民図書館・土佐山内家宝物資料館調査中間報告

Report on Survey of Tokushima University, Library of Kochi city,

Tosa Yamauchi Family Treasury and Archives

科学研究費補助金・基盤(A)「地図史料学の構築―前近代地図データ集積・公開のために」2006年度原本調査中間報告書について　杉本　史子

高知市民図書館図調査の概要

高知市民図書館「土佐国絵図」の調査・分析　杉本　史子

徳島大学・山内家宝物資料館調査データ報告　礒永　和貴・国木田明子

「伊予国江遣ス証文之縁絵図控」について　橋本　暁子

高知市民図書館蔵土佐国元禄国絵図控の調査報告　高島　晶彦
国絵図の形態について　現状からの観察

高知市民図書館所蔵「土佐国絵図」の紙継ぎおよび料紙について　千葉真由美

調査絵地図の色材推定／絵図の色彩材料について　村岡ゆかり・降旗千賀子

科学研究費補助金・基盤(A)
「地図史料学の構築—前近代地図データ集積・公開のために」
２００６年度原本調査中間報告書について

杉本史子

本報告書は、２００６年９月１９～２１日に本科研で行った徳島（国絵図研究会と合同）・高知調査について、同年１２月１７日東京大学史料編纂所で開催した報告会の内容を掲載したものである。ただ、相互の報告を聞いて、さらに加筆した部分がある。

本報告書を手に取られた方は、従来の絵図調査の報告書とは異なった内容であることに驚かれるだろう。本調査では、地理学・美術・模写・古文書修理・歴史学といった、様々な専門・職掌のメンバーが、現場で議論しながら共同調査を行い、さらに報告会で意見交換を行った。

この調査では、以下に示すように、多くの新知見を獲得することができた。と同時に、それらの成果を踏まえて、より深い検討が必要なことも明らかになった。その成果を今後の調査・研究に生かしていくため、中間報告として、本書をまとめた。

特に、高知市民図書館所蔵「土佐国絵図」については、巨大絵図調査のモデルケースとして、事前準備・調査分担を行ったうえで実施し（杉本「高知市民図書館「土佐国絵図」の調査・分析」二２）～４））調査準備・実施体制・経過参照)、詳細な調査結果が得られた。

また、土佐山内宝物資料館のご高配により、欠損部分の断簡を復元して検討することができたことは、絵図解読の大きな成果につながった（前掲杉本、二４）－１欠損部分の復元)。

同図の検討内容は多岐にわたり、相互に複雑に絡み合っているので、「高知市民図書館「土佐国絵図」調査の概要」として、

調査開始時の主な疑問点
判明したこと
方法・視点の獲得
課題

を次にまとめた。

同概要には、「→」を付し、該当する報告を示したので、具体的内容については各報告を参照されたい。

本調査について、閲覧のご許可いただき、さまざまなご教示・ご配慮を賜った、徳島大学・土佐山内家宝物資料館・高知市民図書館の皆様に、お礼を申し上げます。

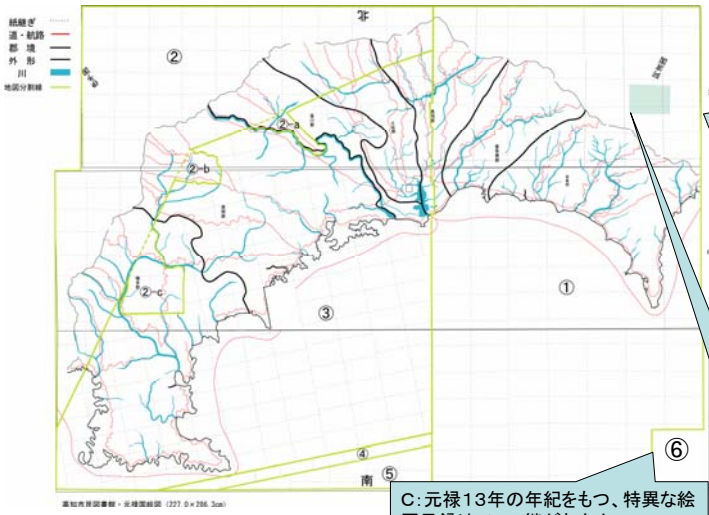
高知市民図書館所蔵・土佐国絵図

トレース：富澤達三・・紙継ぎ、道・航路、郡境、外形、川、郡名
：柏木信泰・・地図分割線、地図分割記号

調査開始時の主な疑問点

A 現状では、三分割されて軸装されている。→軸装以前の形態は？

B 紙の継ぎ方、一枚一枚の紙の大きさによって、少なくとも、①～⑥の6つの部分（緑区分線）に分けられる。



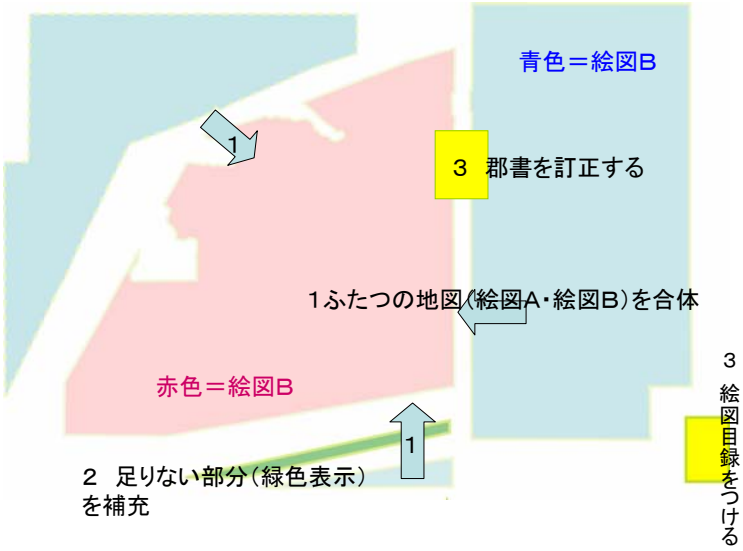
C：元禄13年の年紀をもつ、特異な絵図目録は、いつ継がれたか？

D 色つき料紙一枚が貼られている意味は？

判明したこと（1） 軸装以前＝折図段階での作成過程・構造

本図は、修正過程を地層のように残している、下図（仮控図として保管）。

作成は、下記の三段階で行われた（3の作業は元禄13年）→高島・杉本



判明したこと（2）

絵図Bの特異性

1　他の部分とは異なる料紙の貼りつぎ方（仮称「斜め貼り」）→千葉
2　陸地部分で、特に複雑な紙継ぎがみとめられる一郡境や川などの曲線部分で継がれている箇所がある（仮称「曲線継ぎ」）→千葉
3　他の部分にはみられない、丸みを帯びた山描写（仮称「丸形山」）→杉本、画像は降旗・村岡19ページ1-13図、
4　記載の抹消・改変がみられる→杉本

判明したこと（3）

下図と献上図の彩色変更を記録した図

1　絵図目録に、各郡、正保絵図＝元禄下図時の色分けと、元禄清図の色分けを併記→降旗・村岡、杉本

2　元禄清図で変更した隣国彩色を示した紙を、図上該当箇所に、貼付→杉本

方法・視点の獲得

1　構造体として絵図を分析することの有効性→礒永・国木田、杉本

作成技術からみた作成過程の検討→高島

2　彩色・描写への注目→降旗・村岡

絵図間関係解明への有力な手がかり

3　巨大絵図の共同調査の方法論的提案の一歩→杉本

課題

1　国絵図下図作成過程と、国境端絵図作成の関係→橋本
2　絵図B部分の性格と、合体の意味→橋本、杉本
3　中間報告での成果を前提に、もう一度原図確認をし、文献資料とあわせ、絵図A・Bの性格を確定する

高知市民図書館「土佐国絵図」の調査・分析

科研「地図史料学の構築」
061217　　杉本史子

一　はじめに

高知市民図書館「土佐国絵図」調査にあたっては、多様な専門・職掌のメンバーが集まった本科研の特色を生かし、絵図の内容分析に加えて、次の二１）で詳述するように、絵図の構造・仕立て方・材質材料に注目した調査を行った。

また、国絵図という巨大絵図を共同体制を組んで調査するモデルケースとして、事前打ち合わせ・現場での議論・事後報告会を開催して、メンバー相互の発見を共有し、討論の中で新たな発見を生み出していくことをめざした。

二　高知市民図書館所蔵図

１）　高知市民図書館収蔵の国絵図と本調査の課題―構造体としての絵図―

1　現在、高知市民図書館に収蔵されている国絵図（以下「市民図書館図」と記述）は、郷土史家平尾道雄氏より同図書館にもたらされた当時は、断簡に近い状態であり、同図書館に収蔵されてから、補修され三軸に分けられて軸装されたものと伝えられている[1]。

2　「市民図書館図」には、一部欠損部分があり、土佐山内家宝物資料館収蔵の国絵図断簡のなかにその欠損部分にあたる断簡の存在していることがすでに指摘されている[2]。

3　「市民図書館図」は、次のような特異な形状をもっている。

①　紙継ぎのやりかたが変則的。部分的に料紙が斜めになっている部分がある。

②　各部分により料紙一枚のサイズも異なっている？

（千葉：表１　料紙計測データ／表２　料紙平均値）

③　また、絵図目録部分も、郡別の色見本を示す楕円分（各郡の村の色を示す）が、各郡ふたつづつ記されており、ひとつの郡にひとつの色を表示する通常の国絵図の表示とは異なる特異な表現となっている。

しかし、これまでなされてきた検討では、２や、３で述べた特異な形状については、意識されたことはなかった。

今回の調査では、

対象とする絵図を、支持体（紙）やそのうえに塗られた色彩材料などから成る構造体として捉え、調書を作成する。

各時代に具体的に存在したモノとして絵図を捉え直し、内容分析と合わせ検討することで、絵図を複眼的に読み解くことをめざす。

→当時の人々はモノを作り出すための材料をいかに選び取ったかという視点は、近代化のなかで恐らくは見失われてしまった、人々がモノによって作り出していた秩序への理解や感覚の復元にもつながる。→モノ同士の構造・コンテクストの復元

---

[1] 大脇保彦「土佐国絵図について－元禄国絵図を中心とした若干の検討」（『高知大学学術研究報告』第４０巻、人文科学、1991）

[2] 大脇前掲論文

２）　調査実施前の予備的考察

＜可能性１＞「市民図書館図」イコール「元禄仮控図」か

4　文献資料（「長帳」土佐山内家宝物資料館）によれば[3]、元禄国絵図作成事業の際、高知藩は、幕府の下絵図検査※に合格した図を、江戸での一時的な仮控として、新郷村帳（元禄郷帳）を添えて、品川御蔵に保管した（以下「元禄仮控図」と表記）。この「元禄仮控図」は、幕府に提出された清図とは、彩色・木立の描写は異なっているが、方角・国境・道川・諸書付まで、清図と一点の相違もないものであり、元禄１４年７月、国元に送付された。

「市民図書館図」は、絵図目録部分に「元禄十三庚辰年　月（月は空白のまま）、松平薩摩守」と記載されており、内容からもこの「元禄仮控図」の可能性が高い[4]と考えられる。

※国絵図の作成過程で作られる諸図の関係[5]

現地　　測量記録（野帳）・スケッチ・村や町から提出された資料***など

宿所　　現地記録の集成***

測量後　上記の諸記録により部分図やそれを集めた全体図を作成**

↓

下絵図**

↓

窺絵図**（大名側から幕府側にこの内容でいいか、窺う）→控図**（大名側の控え）

↓

清図＝献上図*（清書したものを、幕府に献上）　→控図**（大名側の控え）

↘

写図（何らかの必要で写した図）

*基本的に幕府側に残る→幕府の文庫を継承した国立公文書館など

**藩側に残る→各県立図書館・文書館など

***村や町や測量担当者の家に残る→文書館・個人宅など

＜可能性２＞　あるいは、「市民図書館図」とは、「元禄仮控図」と「正保図写」のキメラなのか

5　「元禄仮控図」は、品川御蔵収蔵時、「正保古絵図・郷村帳」（正保国絵図・郷村帳の写しか）とともに、一箱に入れて保管されたと記録されている。現在の「市民図書館図」の料紙の大きさが部分によって異なることからは、現・「市民図書館図」は、ひとつの箱に収められていた「元禄国絵図仮控」と「正保国絵図写」の断簡を、補修時点で、さながら

---

[3] 渡部淳「土佐藩の国絵図関連資料の紹介―慶長国絵図から元禄国絵図まで」（2002 年 11 月国絵図研究会報告）に引用されている史料を、原史料により確認した。

[4] 渡部淳「土佐国」（国絵図研究会『国絵図の世界』柏書房、2005）では正保国絵図を基に情報改訂を行ったものであり、情報は清絵図と一致するが、全体の雰囲気は正保図のそれを伝えると、記述されている。

[5] 黒田日出男「現存慶長・正保・元禄国絵図の特徴について―江戸幕府国絵図・郷帳管見（二）」（『東京大学史料編纂所報』第１５号）所収図１に加筆

キメラ（キメラとは、もともとギリシャ神話に出てくる、頭がライオン、胴体が山羊、尾が蛇という怪獣）のように合体させたものである可能性もありえる。

「元禄十三庚辰年　月（月は空白のまま）、松平薩摩守」と記載された絵図目録部分が元々のものなのか、別の図のものなのか、検討の焦点のひとつとなる。

＜可能性１の展開＞　変則的な紙継ぎは、絵図作成時の修正過程跡を地層のように示したものなのか

6　「市民図書館図」の特異な紙継ぎは、4で指摘したような軸装の結果生じたものではなく、下絵図作成時の修正過程をあたかも地層のように紙継ぎの上に残しているとも考えられる。この場合、紙継ぎ跡をたどることにより、あたかも考古調査のように、絵図の作成過程での試行錯誤を、復元できる可能性もある。**（高島：紙の形状・継ぎの検討、千葉：③の複雑な紙継ぎ（仮称「曲線継ぎ」　図１・３・４））**

２）調査準備―巨大さへの対処

7　国絵図は、通常は一辺が数メートルにも及ぶ巨大な手書き絵図である。従来この巨大さによる調査の困難性は繰り返し指摘されてきたが、その困難性を克服する調査方法が具体的に検討されることはなかった。本調査では、試験的に以下の手順をとった。

３）調査の実施体制

8　分担　　※事前準備：写真入手→トレース図作成（富澤）→各料紙へのナンバー付与（千葉）

統括　　杉本
紙継ぎ観察指揮・紙質　　高島
色彩材料目視・記録　　降旗（＋ビデオ撮影・顕微鏡写真）・村岡（＋色見本作成）
写真撮影　　谷（透過光・反射光デジタル撮影、顕微鏡写真）
サイズ計測・形状記録・内容検討　　小野寺（統括）・平井・国木田・富善、千葉、橋本、

４）調査経過

9　調査場所では、三軸を同時に全開するスペースはなかったため、便宜上、１軸から部分的に開きながら検討を行った。また、全体写真撮影も不可能だったため、特に問題となる箇所について、コンパクトカメラとピークの約１０００倍の小型実体顕微鏡を組み合わせての顕微鏡写真、デジタル撮影を行った。紙継ぎの検討が必要な箇所は、透過光による撮影も行った。

料紙推定は肉眼観察で行い、また色彩材料の推定には、肉眼及び１００倍の小型実体顕微鏡による目視観察を行った。適宜透過光による観察も併用した。

なお、調査用資料作成・調査後の検討には、高知市民図書館所蔵９分割写真およびそれを元に作成したトレースを使用した。そのため、図形精度については、この分割写真による限界が存在している。今後、高精細全図撮影が望まれる。

４）－１　欠損部分の復元

10　土佐山内家宝物資料館のご協力により、今回、同館収蔵の国絵図断簡と、「市民図書館図」をあわせ検討し、復元した形態に並べて写真撮影を行うことができた。（**谷写真**）

11　　絵図目録部分―１郡２色の謎の解明

一般的には元禄国絵図の絵図目録には、各郡の村形（むらがた）の色見本、郡の名前・石高・村数が書き上げられ、石高・村数の総計が記され、幕府に提出された年月日と、提出者（土佐藩主）の名前が記されている。

土佐山内家宝物資料館断簡中に存在する絵図目録の冒頭部分には、次のように記された張り札が貼付されている「七郡色分ケ、下タ一通りハ、正保絵図之彩色也、下絵図を以窺之節、如已前彩色、出候得共、元禄上納之清絵図ハ、上一通り之色ニ相改之ニ付、相印如此記直也」。この意味は「七郡の色分けは、（二行に並べた色見本のうち）下行は正保絵図の彩色である。下絵図窺のときは以前（正保時）のごとくの彩色で提出した。しかし元禄上納のための清絵図は、上行の色に代えたので、相印はこの通り記し直した」というもので、すなわち色目録のうち、下行に並べられたものは、正保図・元禄下絵図の彩色であり、上行のものは、元禄清図の彩色だということになる。**→「市民図書館図」の①～⑥の村形の彩色はどちらの色か（降旗・村岡）、国境端絵図（全体：橋本、彩色：降旗・村岡）との比較**

なお、絵図目録は下辺以外の三方に墨の枠線が引かれている。

12　　隣国彩色改訂跡の解明

阿波国には、「元禄　上納之清絵図、阿波国之色、如此相改也」と墨書された、薄緑色（白緑？）に着色された料紙張り付けられている（Ｄ１７）。すなわち、「市民図書館図」の阿波国部分に塗られた色が、幕府上納用の清図では、薄緑色に変更されたという表示である。

また断簡中に、別にほぼ同じ大きさの「元禄　上納之清絵図、伊予国之色、如此相改也」と墨書された黄色（藤黄＋胡粉）の料紙が残されている事が判明した。「市民図書館図」の伊予国部分（藤黄）を点検してみると、この料紙が貼られていたと思われる糊跡が発見できた。伊予国部分も清絵図段階で彩色変更が行われたことが明らかになったのである。

すなわち、清図では、「市民図書館図」の隣国彩色はいずれも変更されており、「市民図書館図」には張り紙によってそのことが記録されていることが明らかになった。

13　海書付

南軸の南側の辺は欠損している。

４）―２作図復元　→各報告

14

折図段階（シミ・黴から現在の料紙を現在配置に継いだ折図が存在していたことが判明）[6]
→軸装段階にわけて、修正行為を復元する必要

---

[6]黴・シミから、軸装以前のたたんだ状態でも同じ配列であった（目録とも）判明した。

15

折図段階の検討

絵図のパーツ分け：①～⑤　　→少なくとも二枚の絵図を合成している

絵図Ａ　①②⑤

絵図Ｂ　③

絵図Ａと絵図Ｂを接合するため④

※　絵図Ａ・Ｂは、元来一枚の絵図を切り離して、再結合したものではありえない←**①②⑤と③のかたちから（柏木作図）**

※　三角形の紙は四角形の紙の切断によるもの。**最初から三角形の紙を用いることはありえない（高島）**

絵図目録　折図段階から領域Ａに接合されていた（シミあとから）

16

＜絵図Ｂの検討＞

＊③には、村形抹消、村形よみ抹消、曲線継ぎ（**千葉報告**）、切り込みあり（**高島報告**）

＊街道説明書（小書＝こがき）抹消あり

＊郡名変更あり

＊紙サイズ（**千葉報告**）

＊紙継ぎ（**千葉報告**）

＊丸みを帯びた山（以下「丸形山」と呼ぶ）描写あり[7]

＊村形の色（絵図Ａ・Ｂ異同、国境端絵図と比較する必要）（**降旗・村岡報告、橋本報告**）

＊裏打ち紙検討―露出した部分（０７・Ｐ７―各位置については、千葉：料紙番号図）あり（**高島報告**）

---

[7]山描写の検討

①と②については、Ｂ１１とＢ１２の描写に違いは認められなかった。

調査現場で、高岡郡の付近は屏風的で技量の高い描写であるのに比べ、安芸郡の現室戸市付近の描写は相対的に稚拙ではないかとの所見（**村岡**）、及び、Ｅ８付近の②と③を分かつ紙継ぎを分岐線として、山の描き方が異なるという所見（**降旗**）が出された。

これらのことを念頭に、調査後分割写真を検討したところ、Ｅ８付近でみられたような独特の丸みを帯びた丸形山描写（画像は降旗・村岡 19 ページ 1-13 図）は、③の部分内でのみ見られることが判明した。

17 絵図Ｂと他の部分の比較（グレーは該当なしの項目）→**各報告**

絵図A①②⑤	絵図B③	絵図目録
なし？	郡記載変更あり	
海中航路抹消あり	村形･街道小書抹消あり	
？	村形よみ抹消あり	
？	曲線継ぎあり	
あり①	切り込みあり	
？	料紙サイズ	？
？	紙継ぎ	？
？	紙･簀の目	？
？	紙･糸目	？
？	村形色	
なし	丸形山あり	

三　本調査の成果と課題

18　絵図作成手順についての仮説

絵図Ａ＋絵図Ｂ合体過程で、④を作成
↓
（元禄１３年）郡書修正[8]、絵図目録合体

折図
↓
切り込み・天地切断など　　軸装[9]・分割

図中の修正郡名・郡高と、絵図目録の、内容・筆跡は同一。郡書修正と絵図目録作成は同時に行われたことになる。その時期は絵図目録に書かれた、元禄１３年である可能性が高い。

絵図Ａ・絵図Ｂは、村形の色が絵図目録の下行と同じであるので（**村岡･降旗**報告）、元禄下図以前の内容であるといえる。

また下表のように、絵図Ａ・Ｂともに、元禄１３年と思われる郡書修正が見られる。

絵図Ａ・Ｂの性格確定には文献資料も加えた検討が必要だと考えられる。

---

[8] ①と③の分岐点に位置する、長岡郡の郡書が、もとの記載を切り抜いた上から張り付けてある。従って、少なくとも、新たな郡書が貼られる以前から、①と③が接合された形状が成立していたと考えられる。

[9]料紙同士の貼り合わせというよりも、下紙に貼りつけている。隣同士の料紙接合していない箇所多々あり。

絵図区別	絵図目録（元禄13）		絵図面	
	郡名	郡高	郡修正の有無	石高
A	安喜郡	22181石999	修正あり	絵図目録と同じ
A	香我美郡	39610石93	修正なし	絵図目録と同じ
A/B	長岡郡	36549石452	修正あり	絵図目録と同じ
B	土佐郡	20784石92	修正あり	絵図目録と同じ
B	吾川郡	21750石049	修正あり	絵図目録と同じ
B	高岡郡	57328石976	修正あり	絵図目録と同じ
A	幡多郡	70278石648	修正なし	絵図目録と同じ

19　絵図Ｂの意味

なぜ「市民図書館図」の③部分が斜め紙継ぎになったか。現在東京大学総合図書館に収蔵されている。南葵文庫旧蔵の二枚の土佐国絵図写は、慶長国絵図を写したものだとされている[10]。南葵文庫本と比べたとき、「市民図書館図」の海岸線はより湾曲しており、現在の地形図に近い。③部分は、この地形訂正のために修正されたあとか[11]。

○　虚構の村（秋沢）との関係？

○　曲線継ぎの事例　徳島大・徳４０勝浦郡分間郡図・写真番号 0045～52（徳島藩測量方岡崎三蔵、享和２～天保２＝1802～31）

曲線継ぎ行為の復元？

20「市民図書館図」は、下図と献上図の彩色の変更（村形・隣国色）を記録した図

村形や隣国の彩色については、自然事物を描写した山や木などと異なり、従来の国絵図研究では全く検討の対象とされてこなかった。今回の調査では絵図同士の先後関係が、これらの要素の彩色から判断できるという、新たな視点を獲得できた。

21　「市民図書館図」の国境の紙継ぎと、土佐山内家宝物資料館収蔵国境端絵図（**橋本報告**）

[10] 黒田日出男「南葵文庫の江戸幕府国絵図（５）」（『東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信』５号、１９９９年）

[11] 報告会のあと、南葵文庫旧蔵の二枚の土佐国絵図と、「市民図書館図」のトレースを作成し比較したところ、目視とは異なり、湾の湾曲はほぼ同一であることが判明した。

2006.12.17　東京大学史料編纂所

徳島大学・山内宝物資料館調査データ報告

礒永　和貴（東亜大学）　国木田　明子（神戸市立博物館）

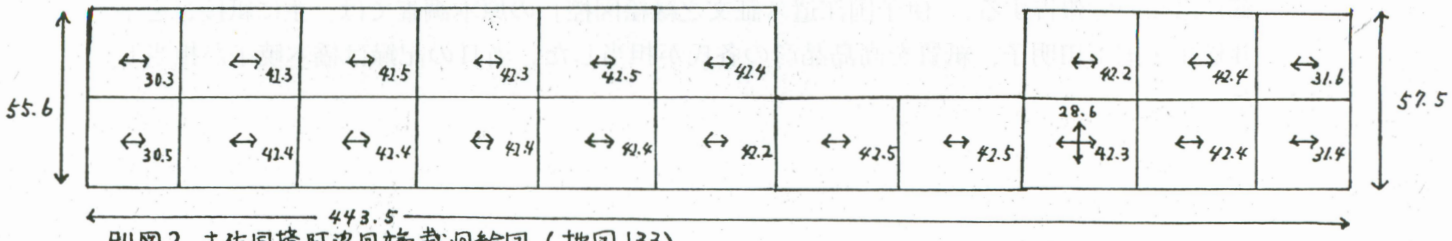
1. 調査記録の反省点＼点数が多く記録がついていけない。何人かが分担できるように記録用紙の作成が必要。
2. 献上国絵図系統＼本紙は、雁皮紙・斐紙（両者の違いは？）の間似合紙を使用。裏打ちは基本的に楮紙。
3. 献上国絵図系統＼墨線下書きか角筆が基本か。針穴を使用したものはあるのか。
4. 国絵図の作製と紙の関係＼途中で一列だけ大きさの違う紙を使う場合、その部分が継ぎ目である可能性がある。
5. 写本系統の国絵図＼楮紙であるが美濃紙を使用。ただし、間似合ではない。
6. 折れ目＼数種類ある場合、途中で修理をした可能性がある。
7. 二度折り＼外していないものは原型のままである可能性がある。外したものは修理した可能性がある。
8. 伊能図＼中国製の竹紙（米粉入り）を使う。
9. 一般図＼楮紙が主流。
10. 縁絵図＼楮紙が主流。
11. 紙の使い方＼基本の大きさの紙をいかに裁断し、継いだか。

第1表　徳島大学所蔵絵図の調査結果一覧

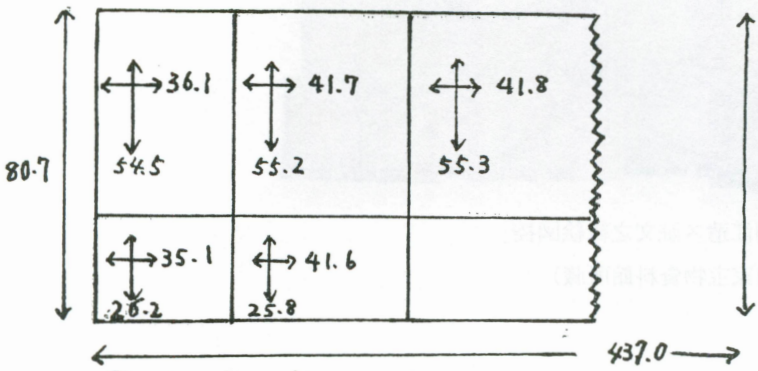
番号	絵図名	紙質	図の寸法（徳大）	一紙の寸法	特記事項
徳2	阿波国大絵図　元禄13年カ	表紙＝雁皮 本紙＝斐紙（間似合紙1尺6寸） 裏打＝楮紙	4250×5088mm	37×89cm、37×62.5の2種類※	裏打ちを変え、二度折りをはずしている。修理を行っている。
徳44	淡路国大絵図　元禄13年カ	本紙＝雁皮、間似合紙 裏打＝楮紙	2673×2051mm	測定せず	二度折り。原型のままの可能性大。
徳45	淡路国大絵図　寛永18年カ	本紙＝雁皮 裏打＝無し	2321×1179mm	35.5×60.5、35.5×93.0の2種類　二尺と三尺幅	折が当初と異なり逆折。当初は長方形。表紙が外され変化。墨の下書き。
徳3	阿波国大絵図　寛永18年カ	本紙＝斐紙 裏打＝楮紙 張り紙＝楮紙	2840×2625mm	二種外35.5×85.5、中92.5×35.5	東西の紙が一列脱落、針穴があるかも
徳47	淡州海岸図	本紙＝楮紙＋非繊維物質（米粉か）	2306×1820mm	26×38.5	角筆の跡あり
徳7	阿波国那賀郡岩脇村村絵図	本紙＝楮紙	1020×1529mm	38.5×25.5	朱色に墨混入、屋根の色はベンガラを利用、草の汁色を使う
徳5	阿波国那賀郡古庄村絵図	本紙＝楮紙	1012×1147mm	38.5×25.5	方位は木版、赤色をつけている。
徳40	勝浦郡分間絵図	本紙＝楮紙 裏打＝楮紙	1287×1905mm	一紙それぞれで紙の寸法異なる。	紙を食い裂いて文字を消して訂正を行っている。
徳4	阿波国那賀郡古毛村絵図	本紙＝楮紙	1008×1750mm	紙継ぎが一定せず、一紙それぞれ紙の寸法異なる	特になし
諸24	越後国大絵図	本紙＝楮紙（美濃紙）	不明	27×38.5	針穴あり（北の方位の円で確認）、書写図
諸2	仙台領弐拾壱郡之図	本紙＝楮紙 裏打＝楮紙	不明	27×39	「不忍文庫」の印あり。
諸28	但馬国大絵図（木版）	観察せず	不明	測定せず	観察せず
全6-1	沿海地図上（小図と中図の中間）	表紙＝竹紙（米粉入、中国製） 本紙＝竹紙（共紙）、裏打	1850×2470mm	125.0×54.5	竹紙は襖絵に使用。白く滲まない。裏打に礬砂、表装は紙漉職人が担当か。石垣状に継ぐ。
全6-2	沿海地図中（1度が51cm）	表紙＝竹紙（米粉入） 裏打＝楮紙　礬砂で変色、劣化	2171×1868mm	測定せず	裏打をとってもう一度裏打を行う必要あり。全6-1～6-3の箱に紐が必要
全6-3	沿海地図下	観察せず	1855×2174mm	測定せず	観察せず
45-1・2・3	豊前国沿海図（大図）3点	観察せず	―	測定せず	観察せず

第2表　山内宝物資料館の調査結果一覧

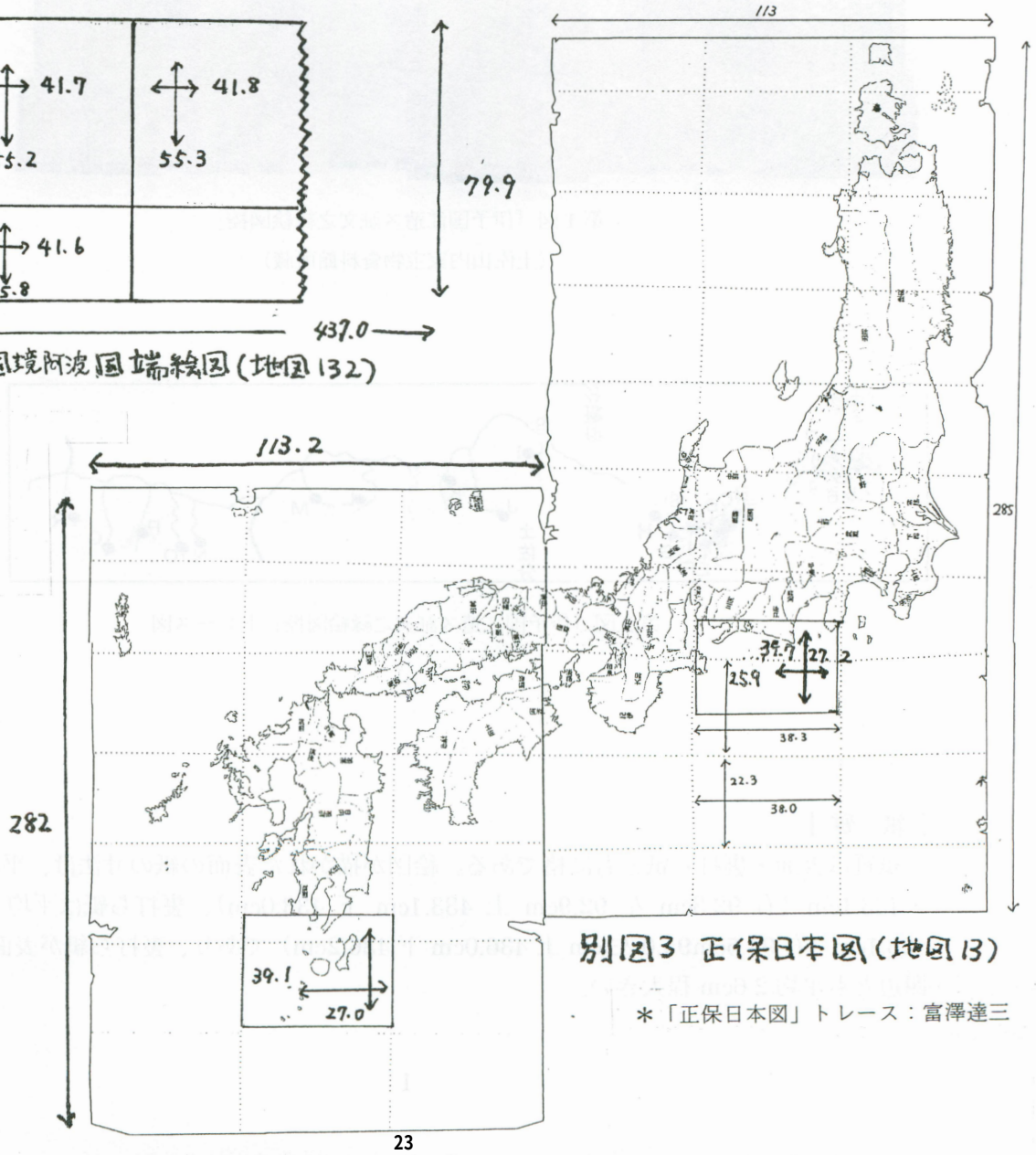
番号	絵図名	紙質	図の寸法	一紙の寸法	特記事項
地図132(27)	土佐国境阿波国端絵図(阿波→土佐)	本紙＝楮 裏打＝楮	図の外側　79.9・80.7×437.0cm	別図1	畳(たとう＝入れ物)＝楮
地図133(28)	土佐国境阿波国端裁廻絵図(同上)	本紙＝楮 裏打＝楮	図の外側　57.6・55.6×443.5cm	別図2	地図132の畳に入っている
地図134(29)	伊予国江遣ス証文之端絵図控(土佐→伊予)	本紙＝楮 裏打＝楮	本紙＝92.9・92.3×433.1・433.0cm	測定せず	袋入り
地図131(26)	阿波御国絵図土佐国端絵図(土佐→阿波)	本紙＝楮 裏打＝楮	本紙＝44.8×78.5、469.1×78.2cm	28.5×39.6 26.2×39.7	角筆あり、袋入り、控図
地図140(35)	断簡	観察せず	測定せず	測定せず	―
地図13(7)	正保日本図	観察せず	別図	別図3	―



別図2　土佐国境阿波国端裁廻絵図（地図133）



別図1　土佐国境阿波国端絵図（地図132）



別図3　正保日本図（地図13）

＊「正保日本図」トレース：富澤達三

2

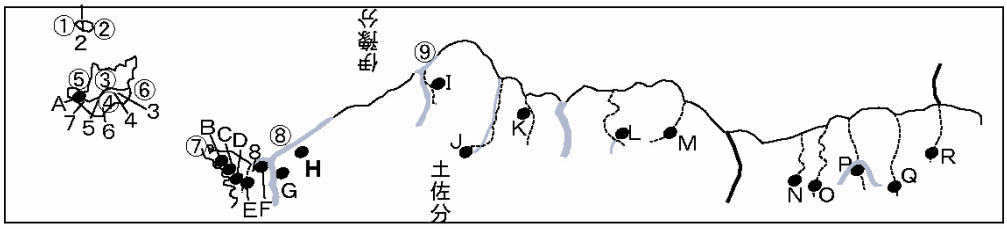
「地図史料学の構築」2006 年度高知調査

「伊予国江遣ス証文之縁絵図控」について

茨城大学大学院・院生　橋本暁子

本報告は、科研基盤研究（A）「地図史料学の構築－前近代地図データ集積・公開のために－」（代表：杉本史子）の一部で、2006 年 9 月 19 日から 21 日にかけて行われた、徳島・高知での調査に同行し、まとめたものである。調査対象の絵図のうち「伊予国江遣ス証文之縁絵図控」（土佐山内家宝物資料館所蔵）と、「土佐国元禄国絵図控」（高知市民図書館所蔵）について報告する。「伊予国江遣ス証文之縁絵図控」の原本調査では、主に紙接ぎを平井松午・国木田明子、紙質を高島晶彦の各氏が担当した。当日の記録は橋本暁子が担当した。

第 1 図「伊予国江遣ス証文之縁絵図控」
（土佐山内家宝物資料館所蔵）

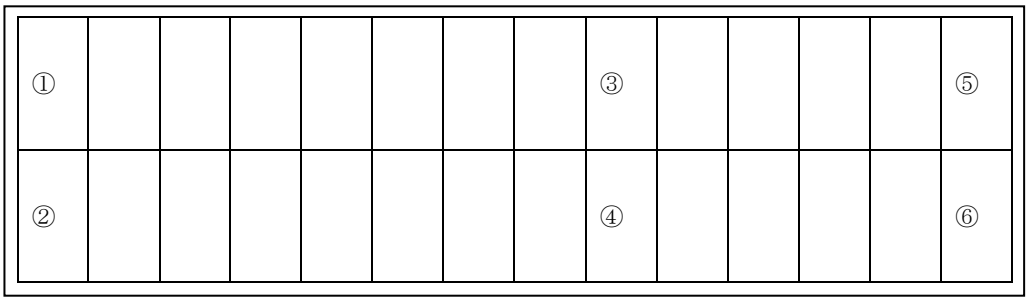


第 2 図「伊予国江遣ス証文之縁絵図控」トレース図

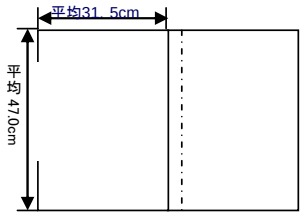
[紙　質]

紙質は表面・裏打ち紙ともに楮である。絵図が描かれた表面の紙の寸法は、平均 92.6cm×433.1cm（右 92.3cm 左 92.9cm 上 433.1cm 下 433.0cm）、裏打ち紙は平均 94.8cm×436.1cm（右 94.5cm95.0 左 cm 上 436.0cm 下 436.2cm）であり、裏打ち紙が表面紙よりも四辺とも平均 2.6cm 程大きい。

料紙は、縦 2 枚×横 14 枚＝合計 28 枚を貼り合わせている。第 3 図、第 1 表に示した①から⑥の料紙を計測した。左右の紙接ぎは第 4 図に示した通りであり、上面に出ている部分を計測すると、料紙 1 枚の大きさは平均 31.5cm×47.0cm であった。紙接ぎは、土佐側を手前にすると、右側の料紙が左側の料紙の上に重なるように貼り合わされていた。したがって、のりしろの幅が広いと数値は小さく、のりしろの幅が狭いと数値は大きい。



第 3 図　料紙計測の箇所



第 4 図　左右の紙接ぎ

第 1 表　料紙の寸法　（単位：cm）

	上辺	下辺	左辺	右辺
①	31.8	30.9	46.7	46.8
②	30.9	31.5	47.2	47.2
③	31.7	31.6	46.6	46.65
④	31.6	31.5	47.0	47.2
⑤	31.0	31.6	46.7	46.3
⑥	31.6	31.2	46.7	46.7

なお、上下については目視していないため不確かであるが、写真を拡大すると、土佐側を手前にしたとき上側の料紙（第 3 図では①③⑤）が下側の料紙（第 3 図では②④⑥）に重なるように貼り合わされているようである。

[記載内容]

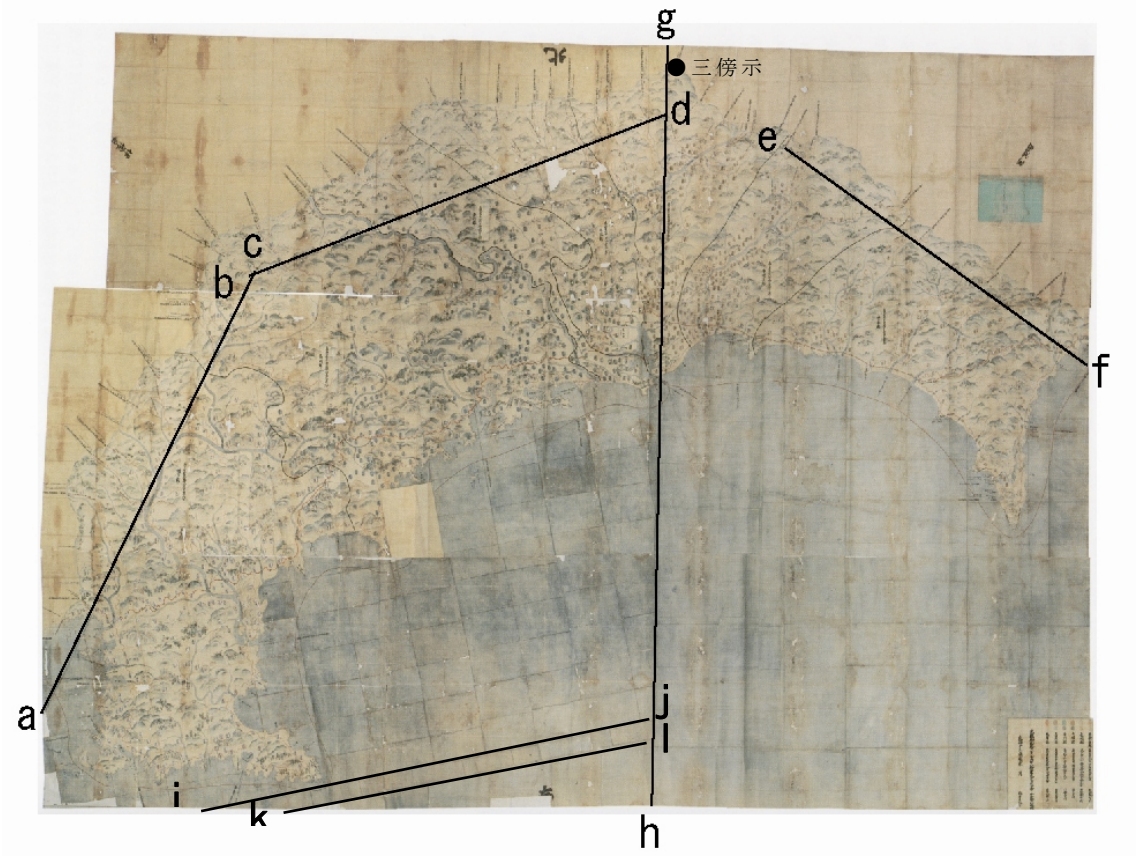
第 5 図 a－b、c－d は、高知市民図書館所蔵「土佐国元禄国絵図控」に見られる国境付近の貼り合せ箇所である。e－f は、原本調査では確認していないが、拡大写真からは貼り合わせと見られるラインである。「伊予国江遣ス証文之縁絵図控」の範囲は、東端は坪田村（現，梼原町，第 2 図・第 2 表記号Ｒ）、西端は姫島で土佐国の国境西側約 3 分の 1 であり、第 5 図の a－b の線の以西に一致する[1]。しかし、阿波国との縁絵図である土佐山内家宝物資料

館所蔵「阿波御国絵図土佐国端絵図控」には「三ツ傍示」（現，三傍示山）までが描かれており、e−f の線とは一致しない。「三ツ傍示」から坪田村までの伊予との国境東側部分の縁絵図に関しては、今回の現地調査では現存を確認しなかった。三傍示山から坪田村までの縁絵図は別途作成されたと考えられ、この所在調査が必要であろう。また今回調査することのできなかった「土佐伊予元禄国境縁絵図」（土佐山内家宝物資料館所蔵）の原本調査も必要である[2)]。

第 2 表は、第 2 図の記号と対応している。大文字のアルファベットは村名、アラビア数字は地名、国境注記はアラビア数字に丸を付した。村形が黄色で染められている烏村より東は幡多郡、水色で染められている初瀬村より西は高岡郡に属し、村形の色分けで郡の違いを示している。国境に位置する土佐国内の村名を記載しているが、Aの「弘瀬村」は「沖島」にある土佐国の村である。地名は 1 から 7 までが「姫島」、「沖島」に記されている点が注目される[3)]。国境注記は①から④のような国分けの表記のほか、⑧と⑨のように、川を国境にしたことを記している。さらに「幕内はへ」「濱中傍示者ゑ」などの岩礁も国境とされたことがわかる[4)]。なお「姫島」と「沖島」はともに明治 7 年に高知県に編入された。

第 2 表　「伊予国江遣ス証文之縁絵図控」記載内容

分類	記号	記載内容	記載方向	村形の色	分類	記号	記載内容	記載方向
村名	A	弘瀬村	北東→南西	黄色	地名	1	姫島	東→西
	B	藻来津村	北東→南西	黄色		2	切たう	北→南
	C	宇須々木村	北東→南西	黄色		3	芦の峯	北→南
	D	椛村	北東→南西	黄色		4	小峯	北→南
	E	大深浦村	北東→南西	黄色		5	大峯	北→南
	F	草木藪村	北東→南西	黄色		6	沖島	北東→南西
	G	野地村	北東→南西	黄色		7	ぬへるはへ	南東→北西
	H	山北村	北東→南西	黄色		8	松尾坂	北→南
	I	出井村	北東→南西	黄色	国境注記	①	土佐分	東→西
	J	大宮村	北東→南西	黄色		②	伊豫分	西→東
	K	中家地村	北東→南西	黄色		③	伊豫分	北東→南西
	L	地芳村	北東→南西	黄色		④	土佐分	北東→南西
	M	烏村	北東→南西	黄色		⑤	幕うちはへ伊豫土佐両国境	南→北
	N	初瀬村	北東→南西	水色		⑥	芦のおりの里伊豫土佐両国境	西→東
	O	西ノ川村	北東→南西	水色		⑦	濱中傍示者ゑ伊豫土佐両国境	東→西
	P	宮野々村	北東→南西	水色		⑧	伊豫土佐両国境川中	南→北
	Q	上成村	北東→南西	水色		⑨	伊豫土佐両国境川中	南→北
	R	坪田村	北東→南西	水色				



第 5 図　高知市民図書館所蔵「土佐国元禄国絵図控」にみられる主な貼り合わせ箇所
（写真版に貼り合わせ箇所を加筆）

[縁絵図からみた「土佐国元禄国絵図控」の考察]

大脇保彦は、土佐藩の元禄国絵図改訂について山内神社宝物資料館（現，土佐山内家宝物資料館）所蔵の文書などから詳細な考察を行った。その中で高知市民図書館所蔵の「土佐国元禄国絵図控」は、「少なくとも元禄十三年十二月以前のものと考えられる。（後略）」とし、下図でなかったかと推定している[5)]。2002 年 11 月 23 日に行われた国絵図研究会の報告会において、渡部淳は大脇保彦説を踏襲しつつ紹介[6)]、さらに『国絵図の世界』の解説では「幕府の正保国絵図を模写した絵図を基本として情報改訂を行ったもので、「新御絵図之下書」と呼ばれている。」と記している[7)]。

現在、「土佐国元禄国絵図控」は三軸に分けて軸装されている[8)]。杉本史子によれば、黴・シミが折りたたんだ状態でも同じ配列にあったことから、軸装にする以前の段階で少なくとも 2 枚の絵図が合成されたという[9)]。料紙の大きさのデータ分析[10)]、切り込み、貼り合わせ箇所の分析[11)]、色・描き方の分析[12)] などから、杉本は a－b－c－d－j－i（絵図Ｂ）は他の部分（絵図Ａ）と異なることを明らかにし、「土佐国元禄国絵図控」が「元禄仮控図」である可能性と、修正時に「元禄仮控図」と「正保図絵図写」を組み合わせた可能性を指摘した[13)]。なお絵図Ｂは、絵図Ａに対して約 15 度左に回転した状態で貼り合わされてい

る。杉本の以上の指摘について、平井松午は絵図Ｂの角度を変えたことで足摺岬が内側へ入った可能性を、小野寺淳は山林の植生表現から、絵図Ａは正保図を参考に模写した図であり、絵図Ｂは元禄期に新たに作成した図である可能性を指摘している[14]。

上記の先行研究ならびに報告と、「伊予国江遣ス証文之縁絵図控」の原本調査をふまえた上で、試みに「正保日本図」（国立歴史民俗博物館蔵　秋岡コレクション）（第６図）と「元禄日本総図」（明治大学図書館蘆田文庫蔵）（第７図）[15] に描かれた土佐国の図形と、第５図に示した「土佐国元禄国絵図控」のそれを比較した[16]。

第６図　正保日本図（土佐国部分）
国立歴史民俗博物館（秋岡コレクション）蔵
（『国絵図の世界』所収の写真版より）

第７図　元禄日本総図（土佐国部分）
明治大学図書館蘆田文庫所蔵
（『国絵図の世界』所収の写真版より）

日本図に関して川村博忠は、正保日本図は寛永日本図より進歩が見られ、土佐に関しては土佐湾の湾入ができて四国の形態が良くなったこと、元禄日本図は縁絵図を利用して編集されたため正保日本図よりは精度が劣り、四国は東南部が南へさがりすぎていると指摘した[17]。

「正保日本図」では、土佐国・伊予国・阿波国の国境に描かれた三傍示山を境に土佐国全体が太平洋側に急角度で折れて描かれているが、一方「元禄日本総図」では折れる角度がゆるやかである。さらに、この角度の相違により、「正保日本図」に比べて「元禄日本総図」では三傍示山より東側部分が長く描かれている。また、「元禄日本総図」では「伊予国江遣ス証文之縁絵図控」に見られた山も表現されている。しかし、南端部の姫島から足摺岬にかけては東西に水平に描かれている点は共通している。両日本図を前提にするならば、正保図と元禄図における土佐国の図形は大きく異なっていた。「土佐国元禄国絵図控」は、三傍示山より東側部分が長く描かれており、また第 7 図の「元禄日本総図」における国境の山の表現と近似していることから、絵図Ａは元禄図の図形と推測される。絵図Ｂは、仮に 15 度右に回転させても、正保日本図に見られた土佐国のような急角度にはならないため、同じく元禄図の図形と推測される。

1) ただし大脇保彦が指摘した通り、「土佐元禄国絵図控」には「沖島」を含む土佐国西南端部が欠けている。大脇保彦 1991「土佐国絵図について－元禄国絵図を中心とした若干の検討－」(『高知大学学術研究報告』40, 人文科学 pp.83－97.)

2) 国絵図研究会編 2005『国絵図の世界』「国絵図所在一覧」pp.395－396 参照。なお伊予には縁絵図そのものが残っておらず、阿波には「讃岐伊予土佐国端並裁廻絵図」(国立国文学研究資料館所蔵) が存在する。

3) 前掲 1) によれば、正保以来、永らく争論があったため、厳密な境界図が示されている。p95.

4) 渡部淳 2005「土佐国」国絵図研究会編『国絵図の世界』pp.267－270.

5) 前掲 1) p96.

6) 渡部淳 2002「土佐藩の国絵図関連資料の紹介－慶長国絵図から元禄国絵図まで－」2002 年 11 月 23 日国絵図研究会報告会

7) 前掲 4) による。

8) 前掲 1) によれば、同図は平尾道雄によって高知市民図書館に第二次世界大戦後もたらされ、その後市民図書館が補修・軸装したものであるという。p89.

9) 杉本史子 (東京大学史料編纂所) 報告 (2006 年 12 月 17 日)

10) 千葉真由美 (東京大学史料編纂所) 報告 (2006 年 12 月 17 日) による

11) 高島晶彦 (東京大学史料編纂所) 報告 (2006 年 12 月 17 日) による

12) 村岡ゆかり (東京大学史料編纂所)、ならびに降旗千賀子 (目黒区美術館) 報告 (2006 年 12 月 17 日) による

13) 前掲 9) による。

14) いずれも 2006 年 12 月 17 日東京大学史料編纂所で行われた報告会での意見交換。

15) いずれも国絵図研究会編 2005『国絵図の世界』に掲載。

16) 前掲 1) によれば、正保土佐国絵図は現存しないが、山内神社宝物資料館 (現, 土佐山内家宝物資料館) 所蔵の断簡文書から正保古国絵図の写図が存在した点、正保国絵図の系統をひくと思われる図の存在、現存する絵図袋から享保 5 年に国絵図と控図を作成した点が指摘されている。p87.

17) 川村博忠 1990「日本総図」『国絵図』吉川弘文館, pp212－226.

科研「地図史料学の構築」
高知市民図書館蔵　土佐国元禄国絵図控の調査報告　　史料編纂所　高島晶彦
国絵図の形態について　　現状からの観察

現在、折りたたんで保存していた絵図から三幅の掛幅装に現状変更されている。

大脇保彦(高知大学名誉教授)氏によれば、雨ざらしになって破損していたものを修復したとのことである。
現在、原本に残る腐損・虫喰いによる欠失・シミにより、当時の破損状況をうかがい知ることができる。
腐損・虫喰いによる欠失・シミは一定の間隔で存在しており、折りたたまれていた時の痕跡であることがわかる。

紙継ぎについて
北・南を天・地とし、東・西を左・右とすると、格子状に天と右が上前になる。(格子継ぎ)
現状で、継ぎ手が離れた箇所、つきつけになっている箇所があり、これは、現在のかたちに仕立てた際おこったものと思われる。
裏打ち紙は本紙の継ぎと重ならないようにずらして石垣状(段違い)に継いで裏打ちしている。(石垣継ぎ)

一部、 左下がりで格子状に継いでいる箇所があり、図の変更によるものと思われる。

はじめは、格子状に継がれていたが、図の変更により、修正が加えられたものと思われる。
A12 から W12 の天地のラインを外す。①
C11 から G4、G4 から U1-1 を切り取る。②
変更箇所の作成。③から⑥
切り取られた箇所と変更箇所を継ぐ。②から⑥
A12 から W12 の天地のラインで継ぎなおす。
修理で三角形の形状で継ぐことはしない。台形は可である。

⑤は格子状に継がれているので、①の部分と同じものを使っている。
Y3 から Y10-2　④は③と⑤と継ぐ際のつじつまをつけるためのものと思われる。

継ぎのあわせにくい箇所については、河川・道・郡境に沿って刃物で切り取り貼り合わせているのが見受けられる。
石高を表記している箇所は、四角に切り抜き、新たに張り合わせているのが見受けられる。

修理について
前述のとおり、折りたたんで保存していた絵図から三幅の掛幅装に現状変更されている。

状態が悪かったためか、裏打ち紙を除去せずに裏打ちを施している。
2軸目の2紙分抜けて白紙になっている。石垣状に段違いにずらして継いでいるのがみえる。
際立って白く見えるのが現在の裏打ち紙である。

小口をそろえるため、若干、本紙を裁っている。
図中の文字や河川等が合わない。

「北」の字から下に向かって、Q3 から X2-2、R6 から Z7 へ下に向かって、折れによる亀裂があり、修理跡が見受けられる。

前述の 2 軸目の 2 紙分抜けて白紙になっている裏打ち紙を観察すると、裏打ちの継ぎは本紙と同じく左下がりである。
しかし、この箇所に縦に直線のラインがあり、これは、本紙の継ぎ目と同一線上にあり、本紙が裁たれて、修理され、この箇所で継がれたことを示すものであり、本紙にも図に若干のずれが生じているのが見受けられる。
本紙の幅が長いため、いくつかに分断して修理したものと思われる。

2006.12.17　科研「地図史料学の構築」四国調査報告会

千葉真由美

高知市民図書館所蔵「土佐国絵図」の紙継ぎおよび料紙について

（資料）

〇「土佐国絵図」全体図（紙継ぎトレース図１～７の区分図）

〇紙継ぎトレース図１～７（トレース：千葉）

→各図の朱線が紙継ぎ及び切り込みを示したもの。なお図2は切り込み部分のみを示す。

〇「土佐国絵図」料紙番号図　（トレース：富澤達三／番号記載：千葉真由美）

〇表１　料紙計測データ／表２　料紙平均値

１．紙継ぎについて（図１～７）

（１）巻末トレース図Ｂ　高知市民図書館所蔵「土佐国絵図」の③部分に集中か。

・①②部分に比べ、③部分は左に回転した状態で紙継ぎされている。

・特に特徴的な部分（「曲線継ぎ」がある部分）

図１・・「吾川郡」付近：吾川郡と高岡郡の郡境（仁淀川沿い）

図３・・「幡多郡」付近：四万十川沿い

図４・・「高知山城」付近：浦戸湾先端（桂浜部分）

川沿い・郡境沿い・陸地（海岸線）沿い等にあり。下の紙に貼り付けているものもあり。

（２）郡名および石高記載部分

紙継ぎ有・・高岡郡・吾川郡・土佐郡・長岡郡（以上、トレース図Ｂの③部分のうち）

安喜郡（トレース図Ｂの①部分のうち）

紙継ぎ無・・幡多郡（トレース図Ｂの②-c 部分のうち）

香我美郡（トレース図Ｂの①部分のうち）

２．料紙の大きさについて

（１）料紙１枚について四辺を計測（表１　＊単位：cm）

（２）トレース図Ｂの①部分と③部分の各辺の大きさの比較（表２　＊単位：cm）

①　a：30.48　b：44.95　c：30.41　d：45.34

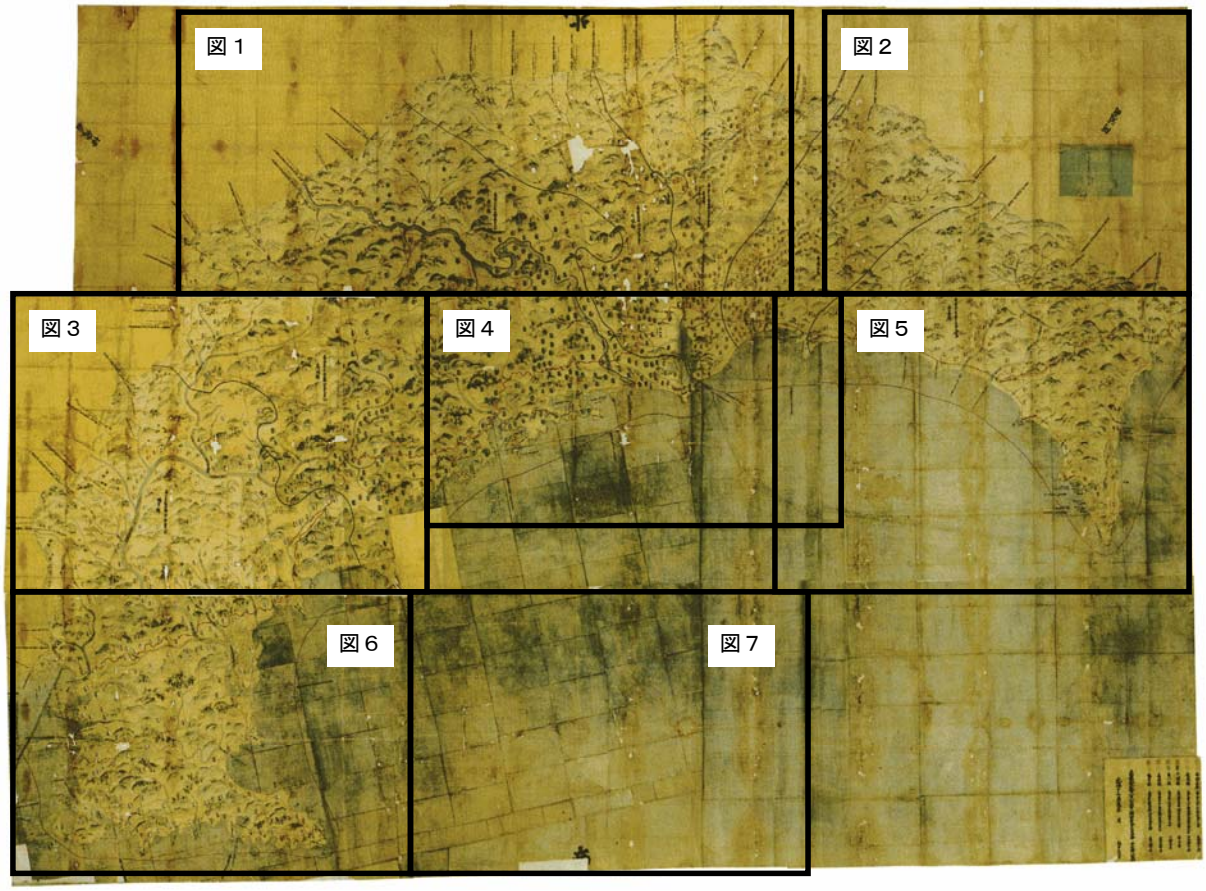
③　a：25.7　b：38.04　c：25.71　d：38.41

→辺 a・c：約5cm差／辺b・d：約7cm差

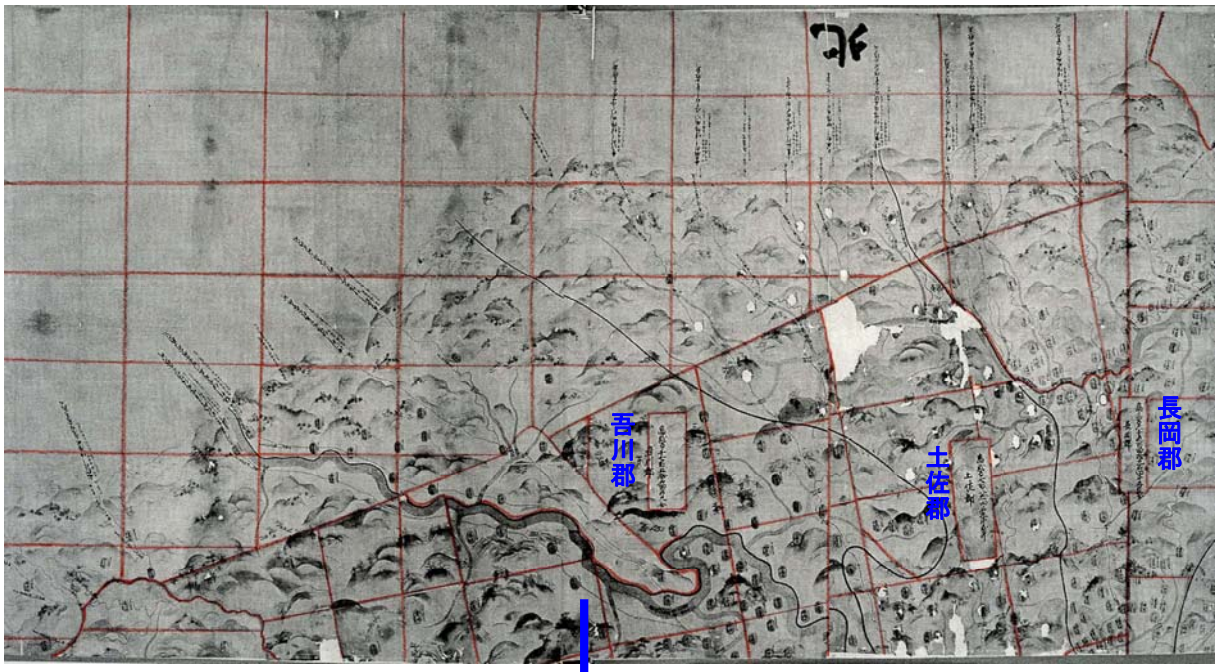
→①部分の料紙＞③部分の料紙

②部分および②-c 部分・・判断可能な計測サンプルなし。

④部分および⑤部分・・①部分の辺 b 程度の大きさはあるが、確定できず。



「土佐国絵図」全体図（紙継ぎトレース図１～７の区分図）



「吾川郡」付近：吾川郡と高岡郡の郡境（仁淀川沿い）

図１

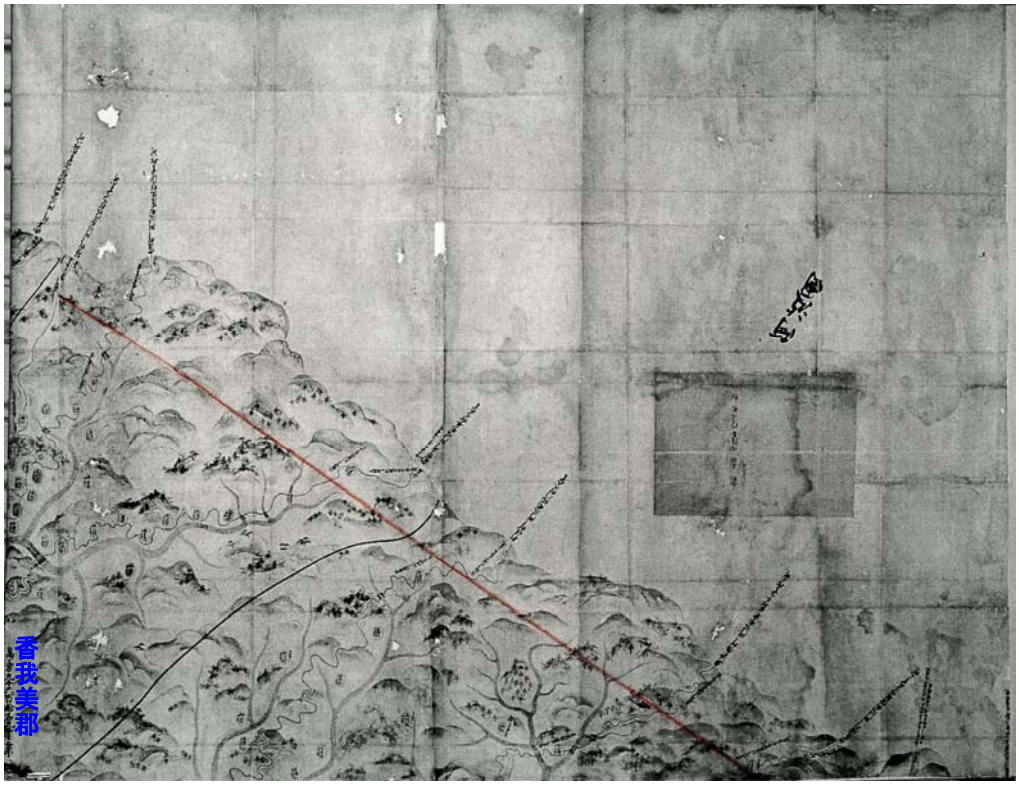


図２（切り込み部分のみトレース）

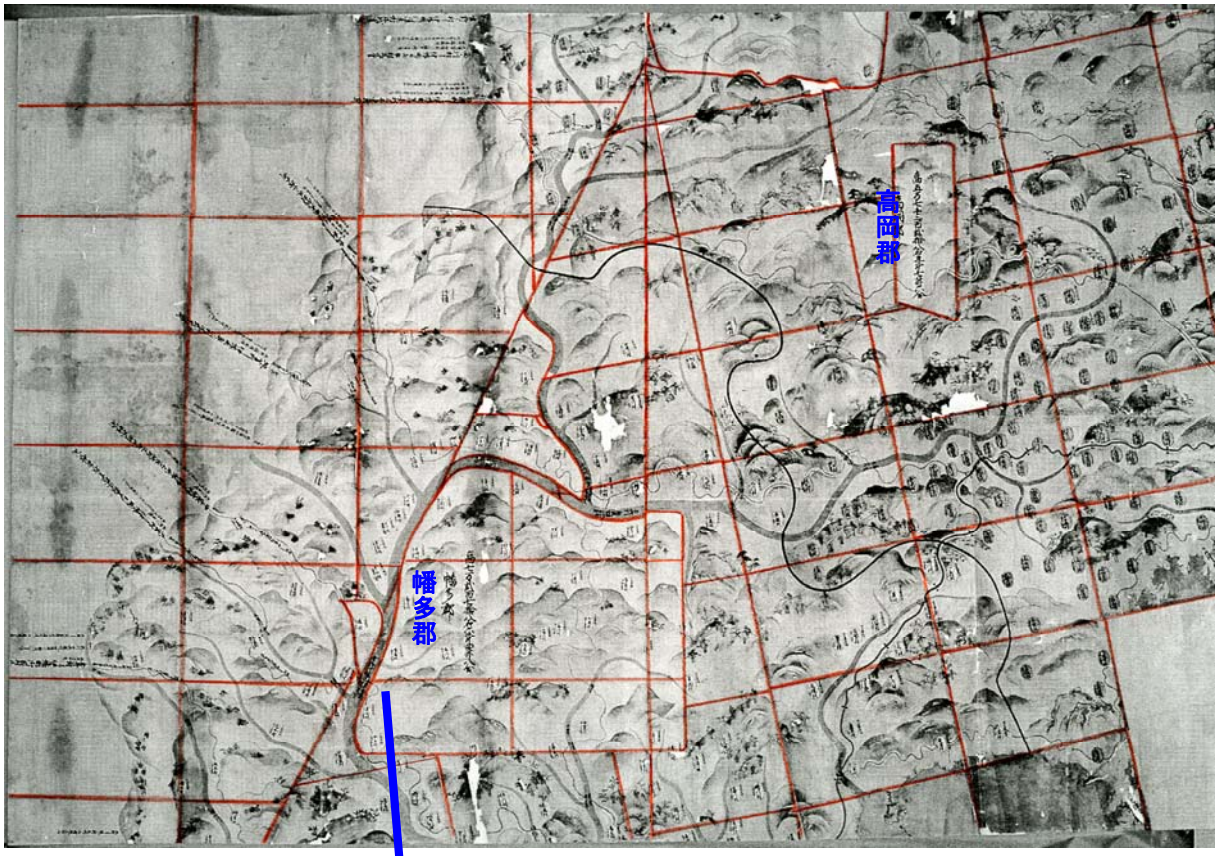


図３

「幡多郡」付近：四万十川沿い

図４

「高知山城」付近：浦戸湾先端（桂浜部分）

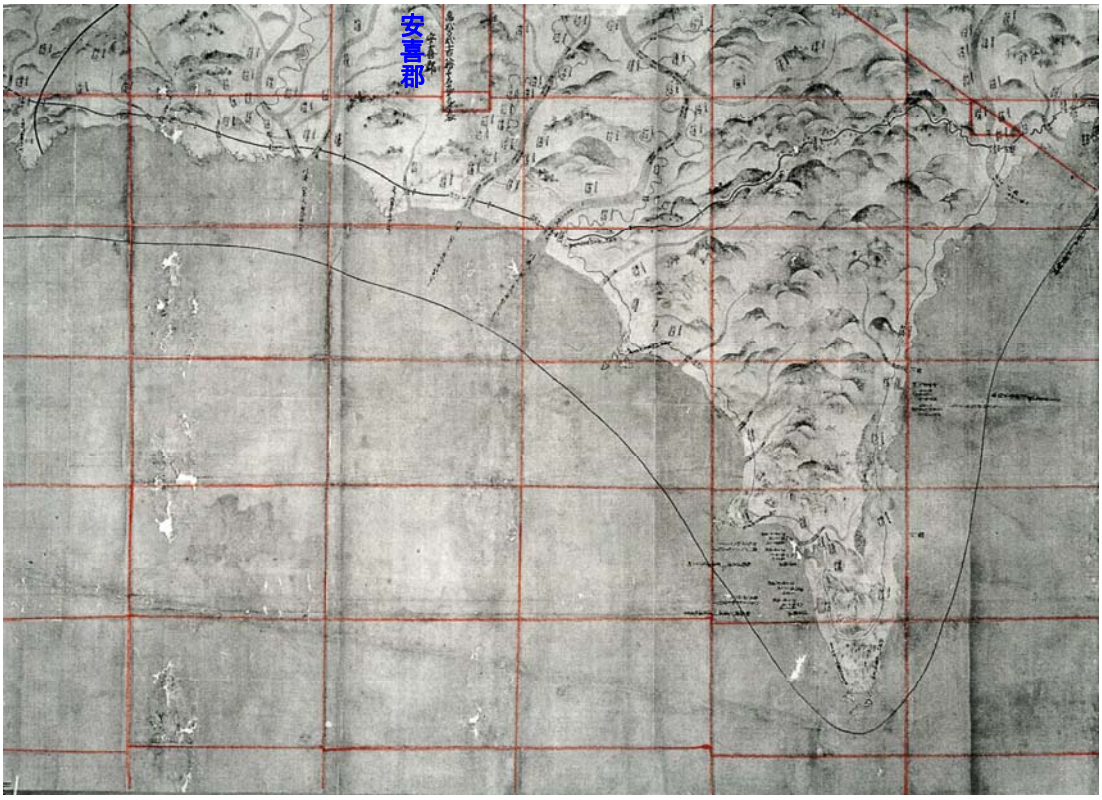


図５

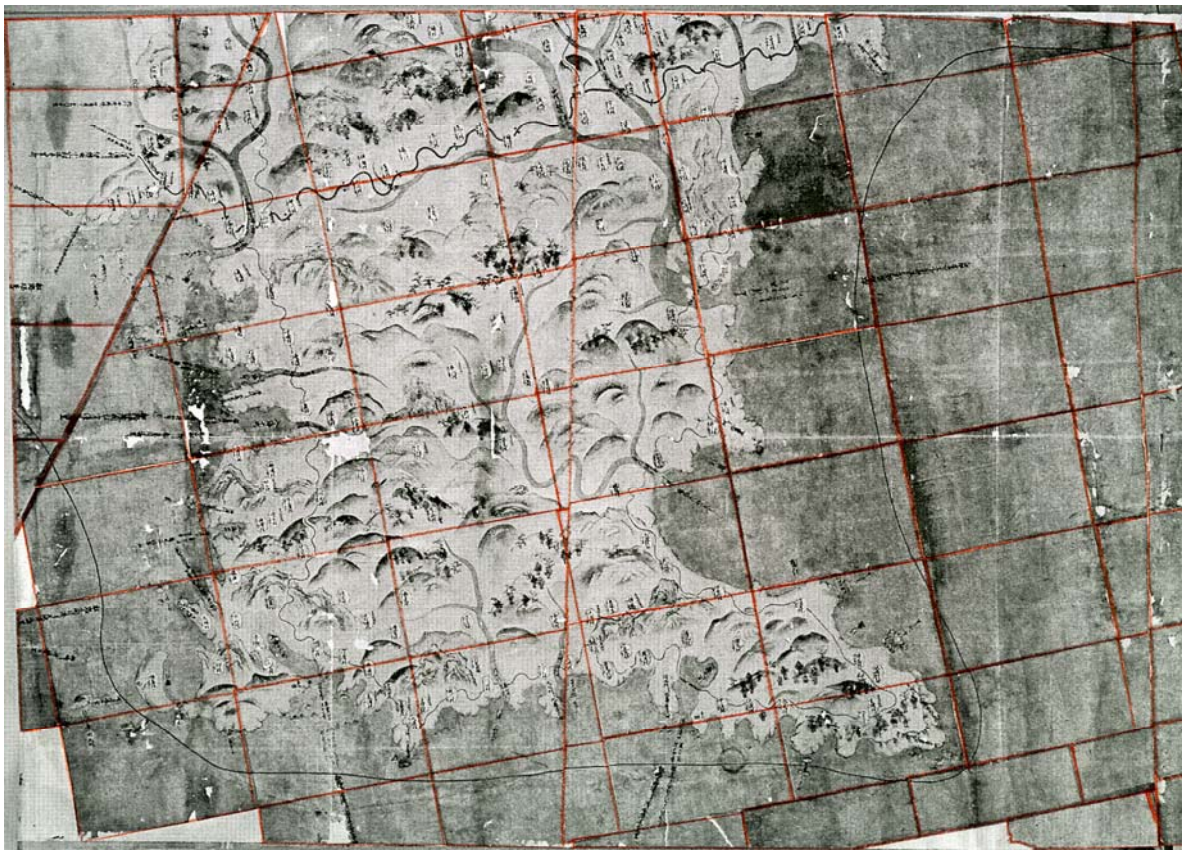


図６

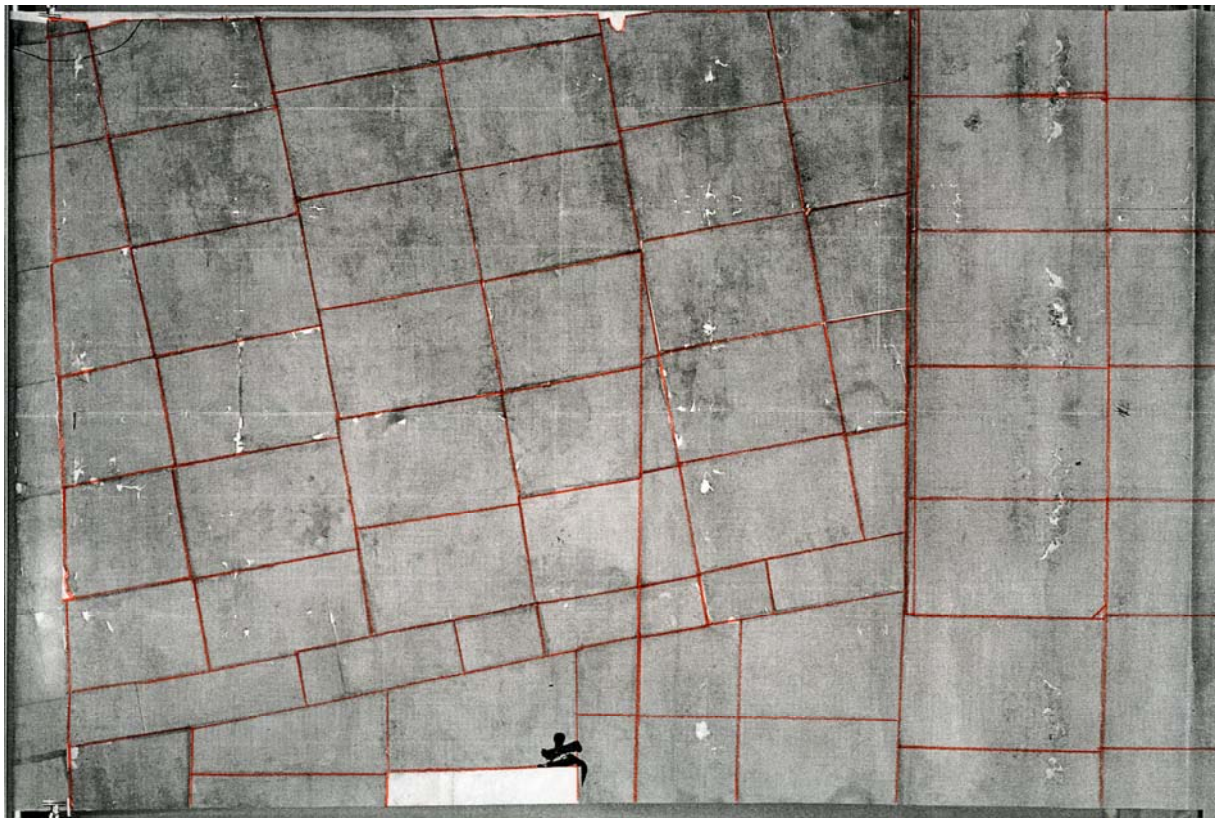
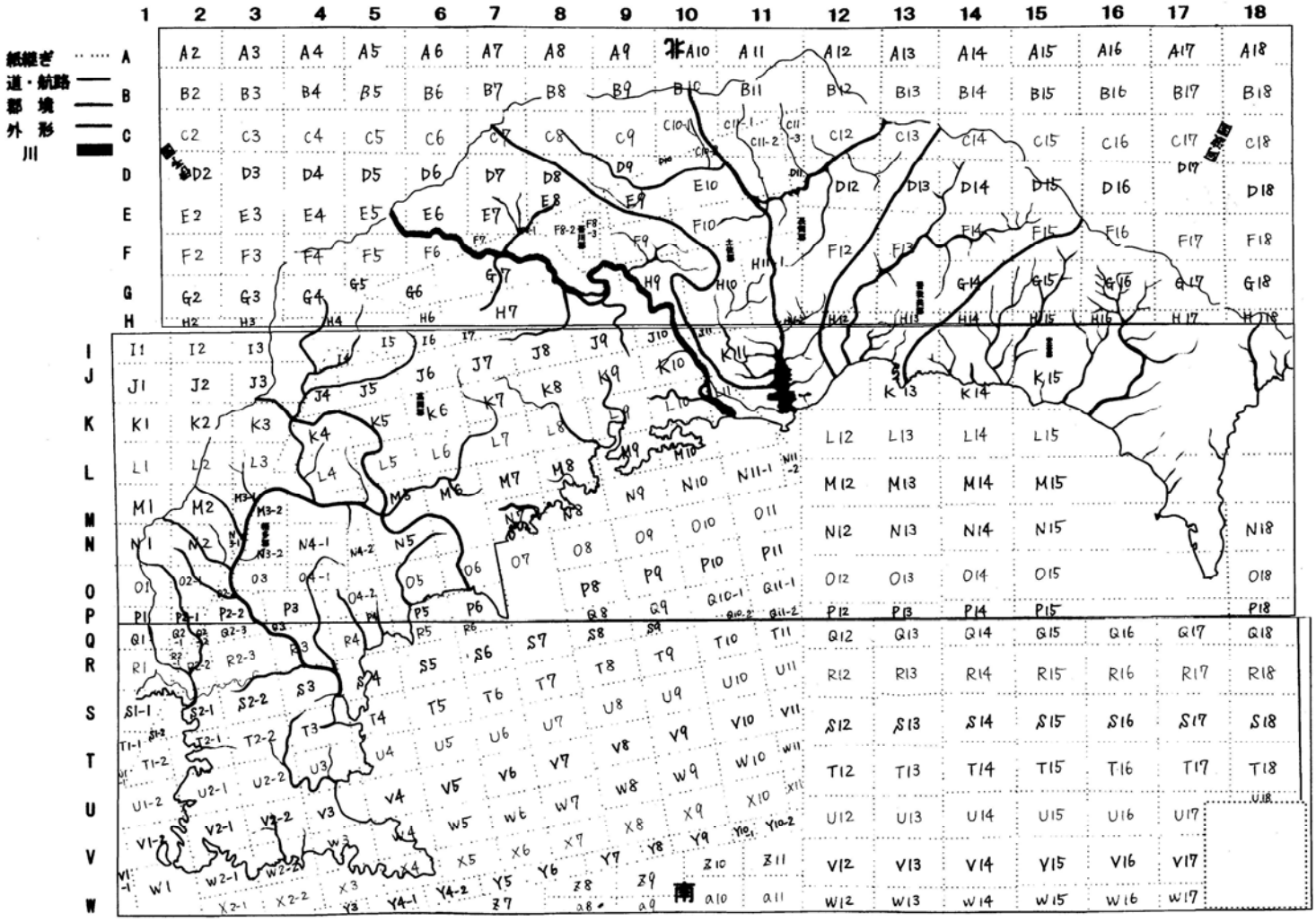


図７

「土佐国絵図」料紙番号図

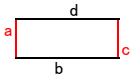


（トレース：富澤達三／番号記載：千葉真由美）

2006.12.17　千葉作成

表1　高知市民図書館所蔵「土佐国絵図」 料紙計測データ

(1)料紙辺記号



(2)区分

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

→(　)内番号箇所左端の細切部分
→らい紙
→特殊な形状の辺。切れ目があるものは合計値を入力。

(3)平均値算出について
・「a」「b」「c」「d」各辺の平均値を算出。
・特殊な形状の紙(三角形など)、および
一紙を切ったために辺が短くなっていることが明らかなものは省く。

			A2		A3		A4		A5	A6	A7	A8	A9	A10		A11		A12	A13	A14	A15	A16	A17	A18
a																								
b																								
c																								
d																								
			B2		B3		B4		B5	B6	B7	B8	B9	B10		B11		B12	B13	B14	B15	B16	B17	B18
a																								
b																								
c																								
d																								
			C2		C3		C4		C5	C6	C7	C8	C9	C10-1	C10-2	C11	C11-2・3	C12	C13	C14	C15	C16	C17	C18
a																								
b																								
c																								
d																								
			D2		D3		D4		D5	D6	D7	D8	D9	D10		D11		D12	D13	D14	D15	D16	D17	D18
a																								
b																								
c																								
d																								
			E2		E3		E4		E5	E6	E7	E8	E9	E10										
a																								
b																								
c																								
d																								
			F2		F3		F4		F5	F6	F7	F8-1・2・3	F9	F10				F12	F13	F14	F15	F16	F17	F18
a																								
b																								
c																								
d																								
			G2		G3		G4		G5	G6	G7									G14	G15	G16	G17	G18
a																								
b																								
c																								
d																								
			H2		H3		H4			H6	H7		H9	H10		H11-1・2		H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
a																								
b																								
c																								
d																								
	I1		I2		I3		I4		I5	I6	I7													
a																								
b																								
c																								
d																								
	J1		J2		J3		J4		J5	J6	J7	J8	J9	J10		J11				(J14)	(J15)	(J16)	(J17)	(J18)
a											26									22.6	–	–	21.8	21.8
b											–									46.6		–	–	
c											–									22.4	22.4	–		21.4
d											38.8									46.8		44		45.8
	K1		K2		K3		K4		K5	K6	K7	K8	K9	K10		K11			K13	K14	K15			(K18)
a													26.5							31	–			30.5
b													–							–	45.6			44.8
c													–							–	30.2			
d													39							–				
	L1		L2		L3		L4		L5	L6	L7	L8	L9	L10		L11		L12	L13	L14	L15			(L18)
a																								31
b																								–
c																								31
d																								–
	M1		M2		M3-1	M3-2			M5	M6	M7	M8	M9	M10				M12	M13	M14	M15			(M18)
a																								30.9
b																								–
c																								30.6
d																								–
	N1		N2		N3-1	N3-2	N4-1	N4-2	N5		N7	N8	N9	N10		N11-1	N11-2	N12	N13	N14	N15			N18
a																		31						31
b																		–						–
c																		–						30.9
d																		46						–
	O1		O2-1	O2-2	O3		O4-1	O4-2	O5	O6	O7	O8	O9	O10		O11		O12	O13	O14	O15			O18
a																								31.2
b																								–
c																								31
d																								–
	P1		P2-1	P2-2	P3		P4		P5	P6		P8	P9	P10		P11		P12	P13	P14	P15			P18
a												26.5												10.7
b												–												–
c												–												11.3
d												39												–
	Q1		Q2-1	Q2-2・3	Q3							Q8	Q9	Q10-1	Q10-2	Q11-1	Q11-2	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18
a																		20.4	20.1	17.7	17.3	17.9	19	19.1
b																		–	–	–	–	–	–	–
c																		19.7	20.2	18.4	17.4	19	19.1	19.3
d																		46.3	44.1	46.2	45.7	44.1	46.2	44.6
	R1		R2-1	R2-2・3	R3		R4		R5	R6							(Q12)	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
a																	15.9	25.6		31	31	30.8	31.1	31.2

b																	0.9	45.6		45.9	45	43.8	46.1	45.3
c																	20.4	30.2		30.7	31.2	31.1	31.2	31.1
d																	0.95	46.4		46.1	45.5	43.9	46.3	44.8
	S1-1	S1-2	S2-1	S2-2	S3		S4		S5	S6	S7	S8	S9				(R12)	S12	S13	S14	S15	S16	S17	S18
a	25.9										–	18.3	10.2				26.4	31		30.6	30.6	30.5	30.6	30.8
b	24.7										–	38.9	–				1	47		45.8	44.8	44	46.1	45
c	28.9										21	10.2	–				25.6	31.2		30.9	30.9	30.5	30.8	30
d	37.5										–	39.6	–					45.6		46.3	45	43.8	46.5	44.7
	T1-1	T1-2	T2-1	T2-2	T3		T4		T5	T6	T7	T8	T9	T10		T11	(S12)	T12	T13	T14	T15	T16	T17	T18
a	25.7										–	25.7	26.1	25.9		21.4	26.6	30.9	31.4	31	30.5	30.9	31.1	30.9
b	11.8										–	38.6	–	–		30.1	1.1	45.8	44.1	46.1	45	43.9	46.1	–
c	28.9										26	26.2	25.7	21.7		15.9	31	31.1	31	31.1	30.8	31.1	31.1	30.8
d	–										–	39.1	–	–		32.8		45.6	44.1	46.2	44.6	44.2	46.15	–
	U1-1	U1-2	U2-1	U2-2	U3		U4		U5	U6	U7	U8	U9	U10		U11	(T12)	U12	U13	U14	U15	U16	U17	U18
a	23.2											25.6	25.9	26		25.7	30.9	–	26.6	29.2	28.8	29.1	27.3	–
b												38.6	37.2	38.2		25.1	1.4	44.4	44.8	46.1	44.9	44	30.6	–
c												26	25.5	25.9		26.4	30.9	25.5	27	29.1	28.8	28.7	–	6.4
d												38.6	37.4	38		30.1	1.4	45.8	44.2	46.1	45.2	43.9	46.1	45
	V1-1	V1-2	V2-1	V2-2	V3		V4		V5	V6	V7	V8	V9	V10		V11	(U12)	V12	V13	V14	V15	V16	V17	
a												25.6	25.8	26		25.7	26.6	31	31	–	–	–	–	
b					38.5							38.6	33	38.7		19.7	1.5	45.4	46	46	45.2	45.2	–	
c					26.2							26		25.9		26.6	26.8	–	31	30.8	31	31	–	
d												38.6	37	38.7		24.8	1.4	45.4	45.6	46	45	45.2	–	らい紙
	W1		W2-1	W2-2	W3		W4		W5	W6	W7	W8	W9	W10		W11		W12	W13	W14	W15	W16	W17	
a												26	25.2	26		26.1		12.8	–	–	–	–	–	
b												38	29	38.4		15.3		45.4	46	46	45.7	45	–	
c												26	26	25.9		–		12.8	13.6	13.6	15.2	15.6	–	
d												38.2	37.2	38.5		19.6		–	–	–	–	–	–	
			X2-1	X2-2	X3		X4		X5	X6	X7	X8	X9	X10		X11								
a												24.6	24	25.6		24.8								
b												38.8		39		10								
c												24.6	25	24.7		25.4								
d												38.2		38.6		15.2								
					Y3		Y4-1	Y4-2	Y5	Y6	Y7	Y8	Y9	Y10-1	Y10-2					i	ii			
a							8.8	13.6			12.6	12	12	12	11.8					iii	iv			
b							13.8？	47			37.4	18		15	30					v	vi			
c							13.6	13.6			–	–	12.8	–	17									
d							37.3	46.7			36.6	19		15	33									
										(Z6)	Z7	Z8	Z9	Z10		Z11		i	ii	iii	iv	v	vi	
a											14.5		19.6			23		17	17.1	26.1	26	23.8	24.2	
b										裏打			44.6			37.8		24.9	38.1	24.9	38.2	24.7	38.3	
c											19		27.4	22		26.2		17.5	17.3	26.1	26.2	23.5	23.5	
d													38.6			–		24.6	38.3	24.9	38.1	24.9	38.4	
												a8	a9	a10		a11								
a														20.8		20.8								
b													裏打	36		37.8								
c														20.4		19.8								
d														36.2		–								

表2　料紙平均値（①･③部分）

(1)平均値算出可能なサンプルを一覧とした。
(2)特殊な形状のもの（切れ目ありなど）は含まない。　　は省く。

①部分

	(J14)	(J16)	(J18)	K14	K15	(K18)	(L18)	(M18)	N12	N18	O18	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16
a				31		30.5	31	30.9	31	31	31.2					
b	46.6				45.6	44.8										
c					30.2		31	30.6		30.9	31					
d	46.8	44	45.8						46			46.3	44.1	46.2	45.7	44.1

	Q17	Q18	R12	R14	R15	R16	R17	R18	S12	S14	S15	S16	S17	S18	T12	T13
a				31	31	30.8	31.1	31.2	31	30.6	30.6	30.5	30.6	30.8	30.9	31.4
b			45.6	46	45	43.8	46.1	45.3	47	45.8	44.8	44	46.1	45	45.8	44.1
c			30.2	31	31.2	31.1	31.2	31.1	31.2	30.9	30.9	30.5	30.8	30	31.1	31
d	46.2	44.6	46.4	46	45.5	43.9	46.3	44.8	45.6	46.3	45	43.8	46.5	44.7	45.6	44.1

	T16	T17	T18	U12	U13	U14	U15	U16	U17	U18	V12	V13	V14	V15	V16	W12
a	30.9	31.1	30.9		26.6	29.2	28.8	29.1	27.3		31	31				
b	43.9	46.1		44	44.8	46.1	44.9	44	30.6		45.4	46	46	45.2	45.2	45.4
c	31.1	31.1	30.8	26	27	29.1	28.8	28.7				31	30.8	31	31	
d	44.2	46.15		46	44.2	46.1	45.2	43.9	46.1	45	45.4	45.6	46	45	45.2	

	T14	T15	W13	W14	W15	W16	平均値
a	31	30.5					30.48
b	46.1	45	46	46	45.7	45	44.95
c	31.1	30.8					30.41
d	46.2	44.6					45.34

③部分

	J7	K9	P8	S8	T7	T8	T9	T10	U8	U9	U10	U11	V3	V8	V9	V10
a	26	26.5	26.5			25.7	26.1	25.9	25.6	25.9	26	25.7		25.6	25.8	26
b				39		38.6			38.6	37.2	38.2		38.5	38.6	33	38.7
c					26	26.2	25.7		26	25.5	25.9		26.2	26		25.9
d	38.8	39	39			39.1			38.6	37.4	38			38.6	37	38.7

	V11	W8	W9	W10	W11	X8	X9	X10	X11	平均値
a	25.7	26	25.2	26	26.1	24.6	24	25.6	24.8	25.7
b		38		38		38.8		39		38.04
c		26	26	26		24.6	25	24.7		25.71
d		38.2		39		38.2		38.6		38.41

2006 年 12 月 17 日(日)

科研「地図史料学の構築」徳島・高知調査報告
調査絵地図の色材推定

村岡ゆかり（東京大学史料編纂所）
報告書制作：降旗千賀子（目黒区美術館学芸員）

1. 調査方法とその記述について

１）調査対象絵図に塗られた色材を、携帯型顕微鏡（peak wide stand micro scope 100x）を使用し目視により色材を推定、村岡､降旗の間で確認しあい村岡が記述していった。色材を、専門的な機材を使用せずに、推定で記述していくことができるのかどうかは、改めて検討すべき課題であり、これからその検討を始めることをここで最初に述べておく必要がある。そのためさまざまな調査の可能性を知る上でも、今回行なう調査方法をまとめておく必要がある。この検討事項については､提案を含めて、最後の所感で詳しく述べていく。

２）今回は江戸時代に使われていたとされる色見本（画法）を手札の大きさで村岡が制作、実資料の色材の質感との比較を顕微鏡で行い、色材を推定することとした。この色見本の制作にあたっては､『画筌』『本朝画報大伝』を参考にした。この色見本は、色材専門外の研究者に理解を得る時に色見本と実物の色材を拡大してみてもらえる有効な手段であった。さらにこの色材推定にあたっては、実際に摸写を手がける村岡の経験的な判断、降旗が行なってきた色材調査での経験が含まれる。しかしながら、本報告書に記述される色材については、全て「推定」であり、確定ではないこともここで断っておく必要がある。

３）調査絵図については降旗が、ビデオ撮影を行なった。大きな地図を広げたりする作業内容をビデオ撮影し、紙の質感、ダメージの具合などを動画で記録し､今後の調査に有効かどうか検討する。DVD にコピーしこれからの調査に役立てる。

２．調査対象資料と美術的観点からの感想

１）．徳島大学附属図書館所蔵絵図　　調査日程：2006 年 9 月 19 日（火）

阿波国大絵図（徳-2､3）

徳-2 について。幕府御用の狩野派絵師によって清書されたという阿波国大絵図は、豊富な色彩に彩られた大変美しいものであった。村形の色、隣接する国の色など、色数も豊富で、緑青､群青、鉛丹など無機系の顔料も使われている。海の藍色が濃色に仕上がっており、絵図の雰囲気を引き締めるよう意識的にデザインされている。

淡路国絵図（徳-44､45）

淡州灘之図（徳-46､47）

仙台領弐拾壱郡之図（諸-2）

越後国大絵図（諸-24-1､24-2）

但馬国大絵図（諸-28）
壱岐、対馬（諸-44）
阿波国那珂賀郡古毛村絵図（文化 11 年 6 月改正）（徳-4）
阿波国那珂賀郡古庄村絵図（文化 11 年 8 月改正）（徳-5）
阿波国那珂賀郡岩脇村絵図（文化 11 年 6 月改正）（徳-7）
勝浦郡分間郡図（徳-40）
《伊能図》沿海地図（全-6-1、6-2、6-3）
《伊能図》大日本沿海図稿（全-11 五畿/東海、全-12 山陰/山陽、全-13 南海、全-14 西海）
《伊能図》豊前国沿海地図（諸-45-1、45-2、45-3）

この３枚の伊能図（全-6-1~3,-11~14,諸-45-1~3）は、色彩を薄塗りにしているが品格があり大変美しい。全体的な感想としては、美術的に見て補色の扱い方（薄い臙脂色と薄い緑色のコントラスト）が抜群に美しい。つなぎの合印を兼ねるコンパスの色彩構成とデザインにも力が入っていて美しい。地図のベースになる色調が植物系の色材を使用し薄塗りであるのに対して、このコンパスに使われた補色の色彩には強さがあり、顕微鏡写真で見ると粒子感があり、鉱物系無機顔料を使用していることがわかる。単に、機能的なところで、つくられたのではなく、充分美術的な価値を含んで制作されたことが解かる。

２）．土佐山内家宝物資料館　　調査日程：2006 年 9 月 20 日（水）
正保日本図（地図 13）
元禄国絵図　阿波御国境土佐国端控一枚　但阿波国江遣控（地図 131）
土佐国境阿波端絵図（地図 132）
土佐国境阿波端裁廻絵図（地図 133）
元禄十三年伊予江遣ス証文之縁絵図控（地図 134）
正保絵図官庫ヨリ借り受け藩ニ　複写のこと他（地図 130、137、138、139）
元禄国絵図上納図証文雛形（地図 136）
国絵図断簡（地図 129）
元禄国絵図断簡（地図 140）
陸奥出羽　国郡行程全図（地図 40）
常陸野州道中細見図（地図 44）

３）．高知市民図書館　　調査日程：2006 年 9 月 21 日（日）
元禄土佐国絵図（3 幅　軸装状態で収納）
七郡の色分けと色彩計画が記述されている点が大変ユニークである。凡例の色味の充実さからいうと、色がかなり重要な意味を持っていたことがわかる。そのは凡例が多色であり美しい。前日調査の山内宝物資料館にその凡例の断片があり、そこに説明書きがあり、段階的に作成していく彩色をめぐっての貴重な資料であるといえよう。（詳細は下記のとおり杉本氏の報告書による）。その断片が市民図書館に運び込まれ付けあわせがなされた（谷氏の写真参照）。

凡例の色見本は2段になっていて、この地図の特にユニークな点は、下絵の段階の色から、献上する地図の近隣図の色指定が添付されていること。主体の土佐に隣接する、ピンク（臙脂色）の阿波国には、緑青の色紙が、伊予国のところには、黄色の色紙が貼られていたと思われる場所が見つかった。具体的な色彩計画の校正過程が解かる貴重な資料である。献上する絵で色を変えることの意味はなにか。

凡例部分「七郡の色分けは、（二行に並べた色見本のうち）下行は正保絵図の彩色である。下絵図窺のときは以前（正保時）のごとくの彩色で提出した。しかし元禄上納のための清絵図は、上行の色に代えたので、相印はこの通り記し直した」（杉本氏報告書より）というもので、今回の調査で、下行の色が実際の地図の色と同じであろうということを村岡が確認した。（この詳細の内容は杉本氏の報告を、色材の推定は村岡氏作成の表を参照のこと。）

樹木、山々の描き手が複数であり、その描き方の性格の違いが判読できた。樹木、山々の描き方の共通パターンはあるが、複雑な樹木などもあり興味深い

３．今回と今後の調査にあたっての所見

歴史資料の色彩の原料についてはこれまで着目することがきわめて少なく、充分な調査がまだなされていないし、関心を持つ研究者も極端に少ない。今回の地図の調査に関する科研費研究の項目の一つに挙げられている絵図の色材の記述調査については、実は美術においても同じで、様式論や美術史,美学的な観点からの研究が主流を占め、なかなか色を主題として研究されることがないのが現状である。色材研究が意識されるとすれば、それは文化財の保存科学、修復においてのみと言い切ってもよいかもしれない。色材や素材に興味を持つ研究者は、殆どがこの分野にたずさわる人々である。こうした分野と、実際の美術分野の接点も少ない。

しかし、ようやく最近、素材や材料の科学的分析の結果などが美術展のカタログなどに掲載されるようになってきた。つい最近の例では、東京国立博物館の「仏像」展において、木彫という素材技法が日本の仏像の特筆される特徴であるとの見解をたて、解説やカタログに積極的に木の種類や、木の構造、組成についての研究論文、豊富な写真を採用した。さらに、今年の夏に開催された三の丸尚蔵館展覧会では、長年の修復が終了した報告書として作成された伊藤若冲展のカタログでも、色材分析が非破壊で行なわれた結果が掲載され、展示会場でもパネルにしたてられていたことは記憶に新しい。こうした動向の要因は、ようやく色材についての関心が重要であることの認識が広がってきたことと、分析機械の開発が進み、科学的な非破壊検査の方法が確立されてきたこと、なおさらにその機械の軽量化が進み持ち運びができるようになったことが大きい。それまでは、分析機械が移動しにくいことから作品を持ち込まなければ色材の測定はできなかったのであるが、作品の所在地に機械が運べるようになってきたことがこの研究に勢いをつけている。

しかしながら、こうした科学調査は、潤沢な予算と時間、人材が必要であり、よほどは

っきりしっかり方針を決めておかなけれならず、計測するポイントも入念に検討しておく必要があり、委託するにも相当な労力と予算が必要になってくる。

こうした調査を、すべての作品に行なうことは今の段階では不可能であるわけだが、そうしたなかで色材についての研究を進めて行くために、今回の研究における色彩調査がどうあるべきかを議論する必要がある。その一つの考え方として、専門家による専門的な機器を使用しないでも、ある程度色の識別を推定できるような方法を提案していくことが必要になると考える。

４．提案１：機材を使用しないところで色材にある程度の検討が行なえるようにするため色彩色見本カードを作成。さらにその色に対しての100倍に拡大した顕微鏡写真のスタンダードを作成する。それによって、分野の異なる調査者が共通の情報ベースをもつことができる。その基準となる色は、狩野派と土佐派の技法書より色材を選定するのがよい。村岡氏が作成された文献における比較表をさらに検討していく必要がある。濃淡の基準を何処に置くか要検討である。（2種類とするか。）
顔料粒度をどうするか。単色、混合色､調合色はどうするか。大きさをどうするか。
学芸員や研究者がこのデータを見て、色材を推定することの参考にできる。あくまでも目視の段階なので決定はできないことに注意を要する。これによって、鉱物質、植物質、染料質の区別の方向が見える。それをどのように記載していくかは要検討。

提案２：この色彩顕微鏡写真の撮影。データ化。
こうした基準となる配色カードと顕微鏡写真があれば、いろいろな分野の研究者との認識を共有するベースができる。例えば“朱”“藍”などは、単色で使われる可能性が高く、朱と丹の違い、藍と草の汁の違いなどを見分けるには､有効ではないだろうか。

問題点：ルーペ用の光源の内容の検討。光の質が赤いので、色に偏りがでる。実際調査においてもう少し質の高い光源を使うことができないだろうか。　それと同じ光源を使って、顕微鏡写真が取れればよいと思われる。

提案３：絵図に示された凡例を多く収集する。
絵図には、凡例がついていることが多く、色別に意味がわかれている。道は､赤。黒が国境など。どのいろがどのように使われているかは、多くのデータを採る必要がある。

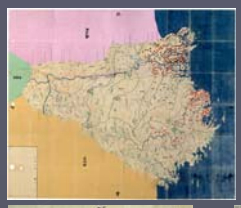
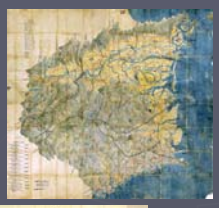
５．検討すべき問題点
色材は、最終的に化学分析をしなくては素材が断言できないため、目視のみの記載が、はたして有効かどうかを検討しなければならない。それが、有効だとして、目視調査による色材の推定をどのような表記にするべきかを検討しなければならない。

絵図の色彩材料ついて

科研『地図史料学の構築』徳島・高知調査報告

目黒区美術館　降旗千賀子
東京大学史料編纂所　村岡ゆかり

徳島大学附属図書館（徳2～47）

2

3

44

45

46

47

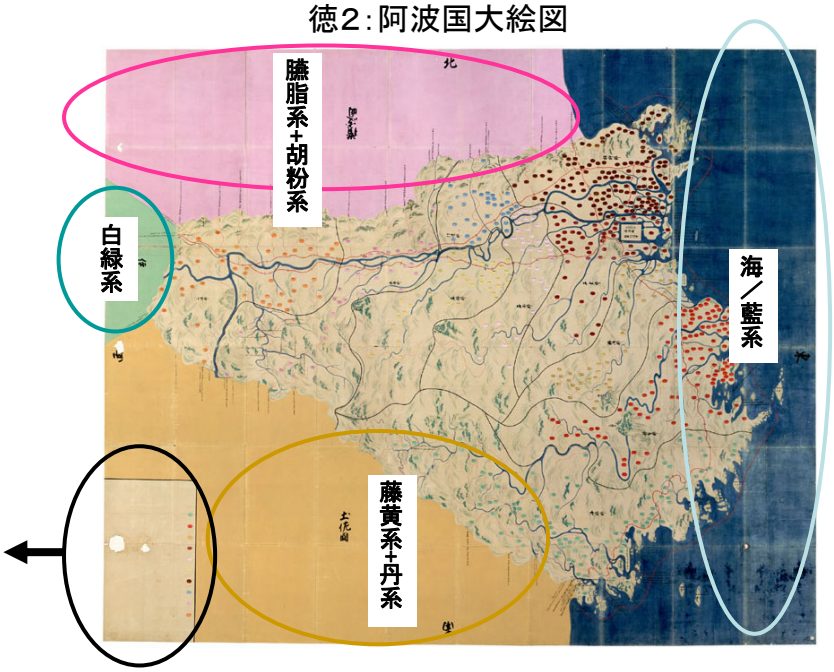
5

4

7

40

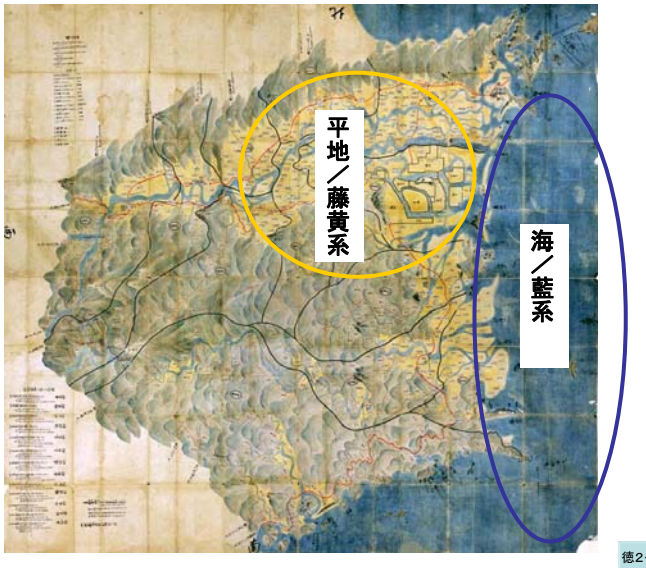
徳2:阿波国大絵図



丹系
臙脂系 ＋ 胡粉系
藍系 ＋ 胡粉系
ベンガラ系か？
藤黄系 ＋ 胡粉系
？
？
丹系 ＋ 藤黄系
朱系
白緑系

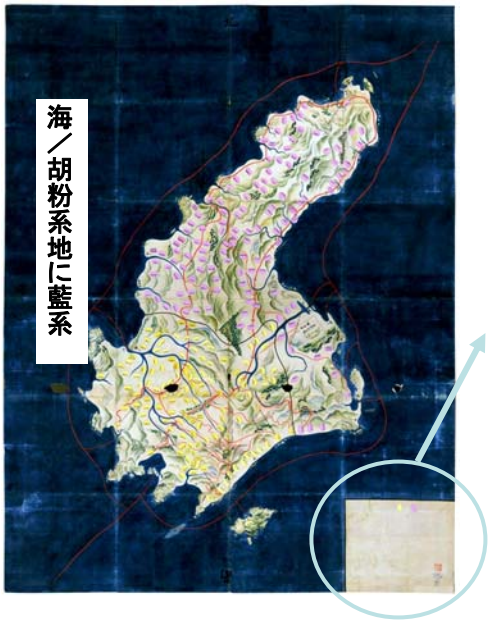
徳2～47

徳3:阿波国大絵図



徳2～47

徳44:淡路国絵図

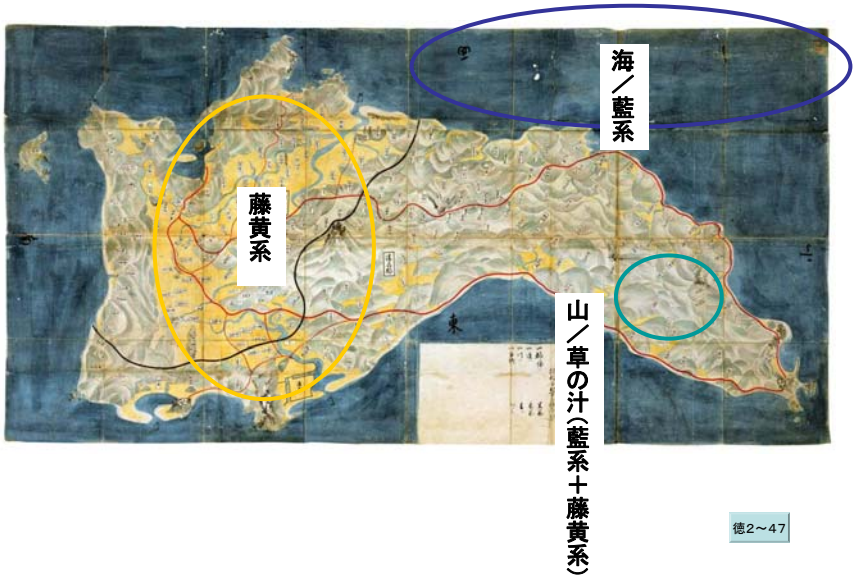


藤黄系 ＋ 胡粉系

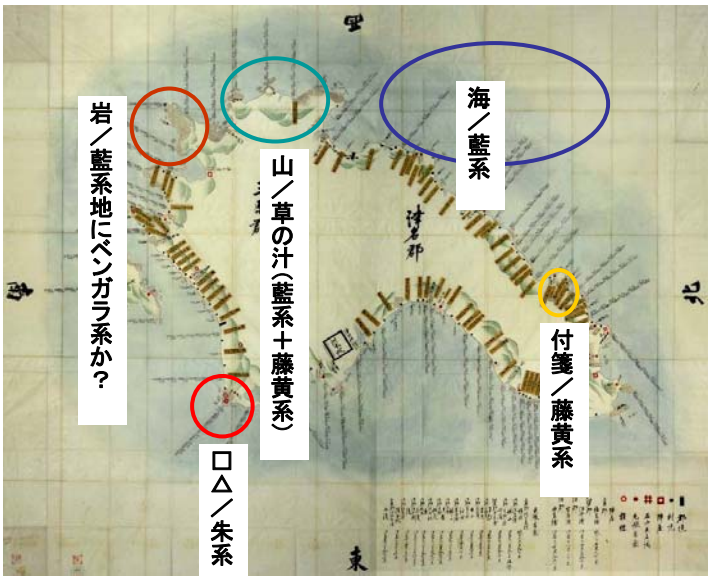
臙脂系 ＋ 胡粉系

徳2～47

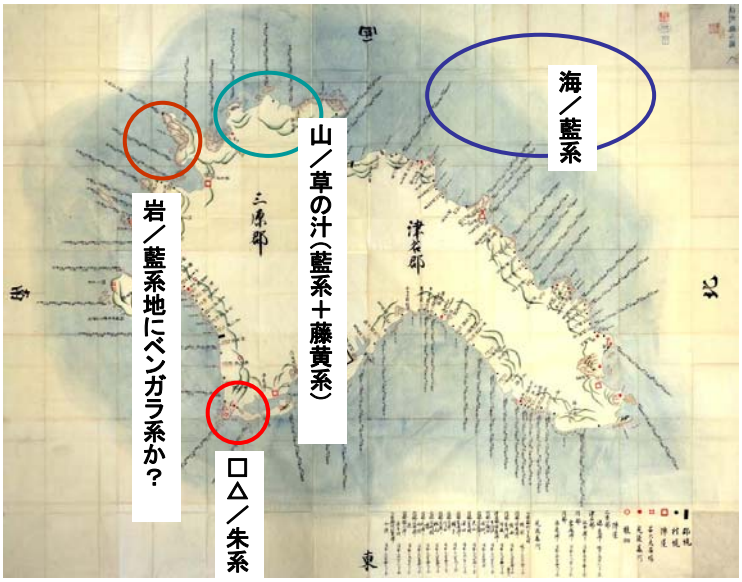
徳45：淡路国絵図



徳46：淡州海岸図



徳47:淡州灘之図



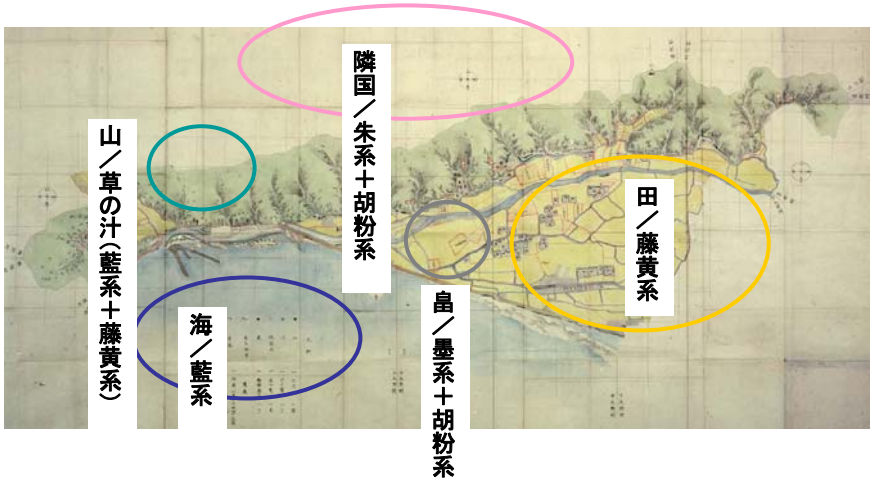
徳24:

- 臙脂系＋墨系か？
- ベンガラ系か？
- 藍系＋胡粉系
- 藤黄系
- 臙脂系＋胡粉系
- 丹系
- 藍系＋藤黄系＋胡粉か？

山／草の汁（藍系＋藤黄系）

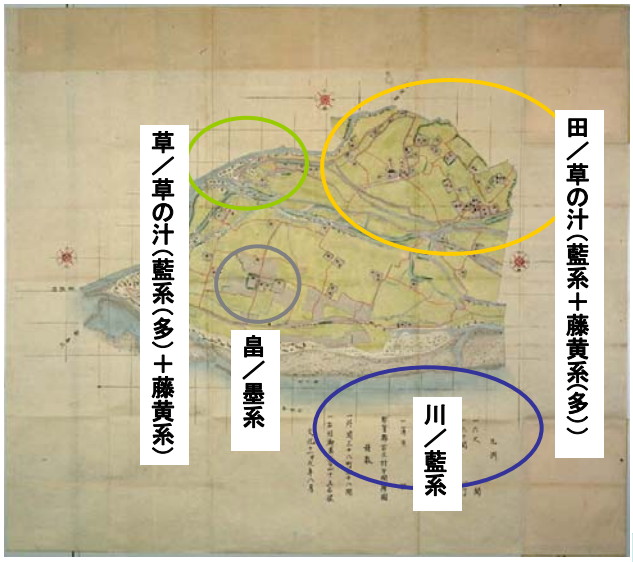
徳2～47

徳4:文化11年6月改正 阿波国那賀郡古毛村絵図



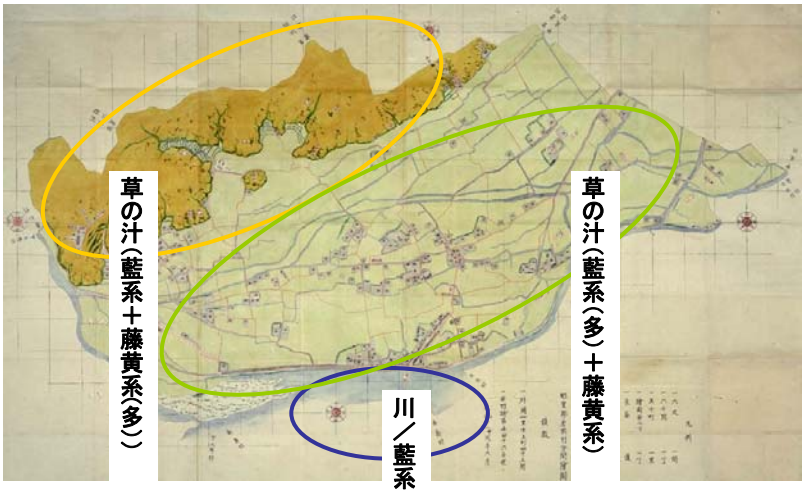
徳2～47

徳5:文化11年8月改正 阿波国那賀郡古庄村絵図



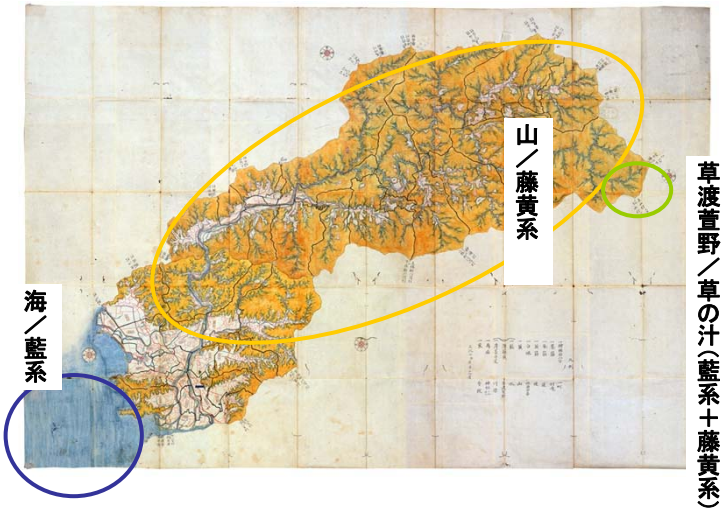
徳2～47

徳7:文化11年6月改正 阿波国那賀郡岩脇村絵図



徳2～47

徳40:勝浦郡分間郡図



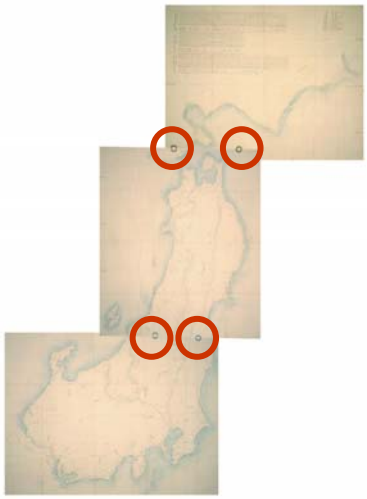
徳島大学附属図書館（伊能図）

全6-1～3：沿海地図上中下

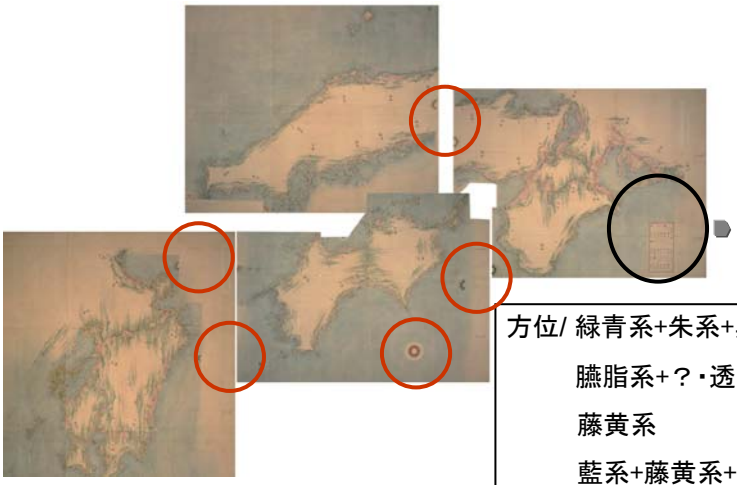
海／藍系

山／奈良緑青系か？

方位／緑青系
花紺青系か？
胡粉系
朱系



全11～14:大日本沿海図稿



方位/ 緑青系+朱系+黒い粒+胡粉系

臙脂系+？・透明な粒

藤黄系

藍系+藤黄系+胡粉系

藍系+藤黄系+透明な粒+墨系

田地霞／臙脂系

海川／草の汁（藍系＋藤黄系）

山岳木／草の汁（藍系＋藤黄系）

砂浜／藤黄系

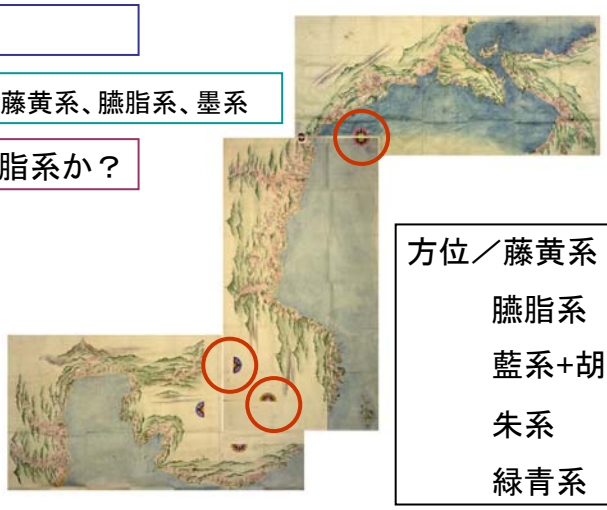
郡界／朱系

諸45：豊前国沿海地図

海／藍系

山／藍系+藤黄系、臙脂系、墨系

平地／臙脂系か？

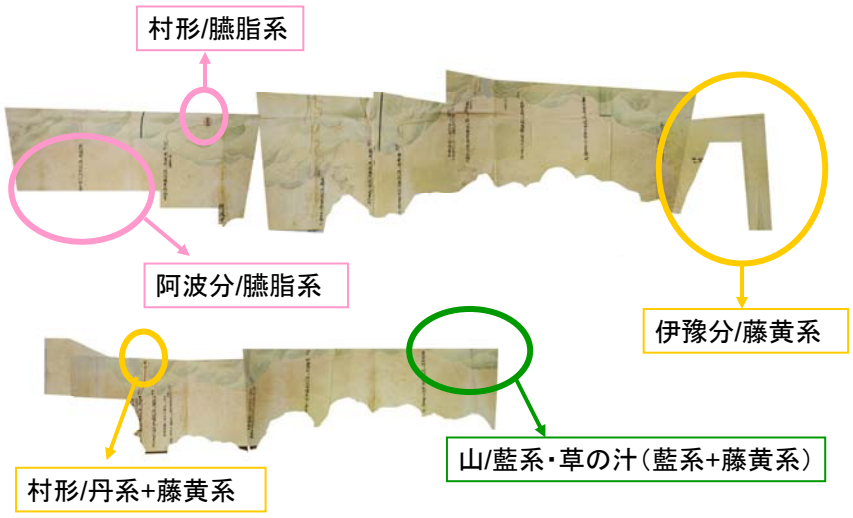


方位／藤黄系
臙脂系
藍系+胡粉系
朱系
緑青系

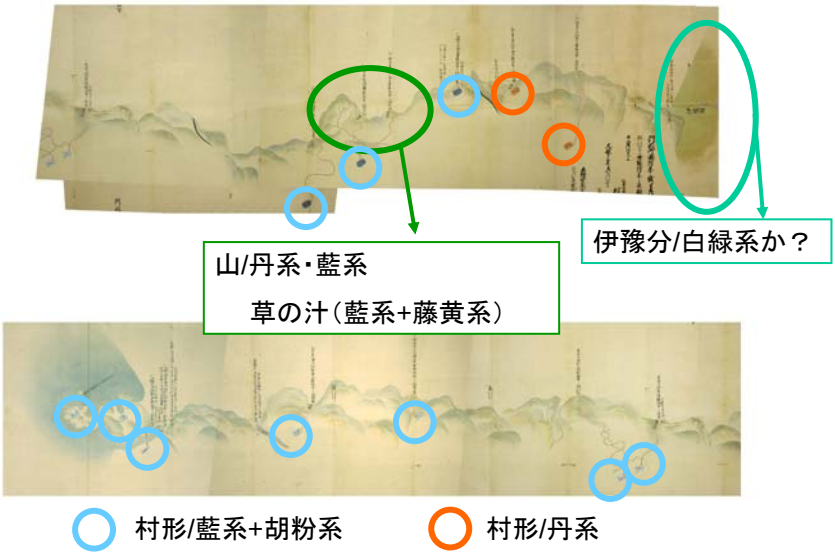
土佐山内宝物資料館所蔵

No.26・27・28・29・34

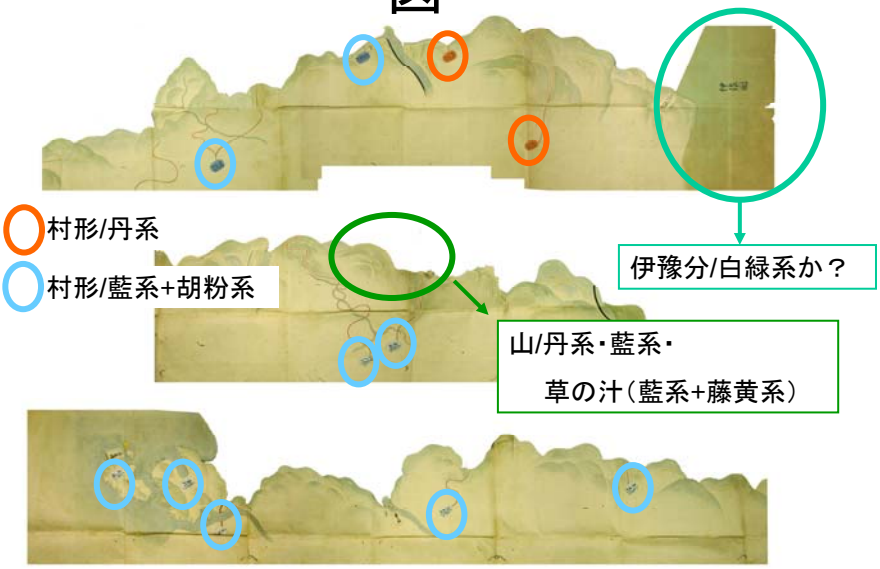
No.26：阿波御国境土佐国端絵図



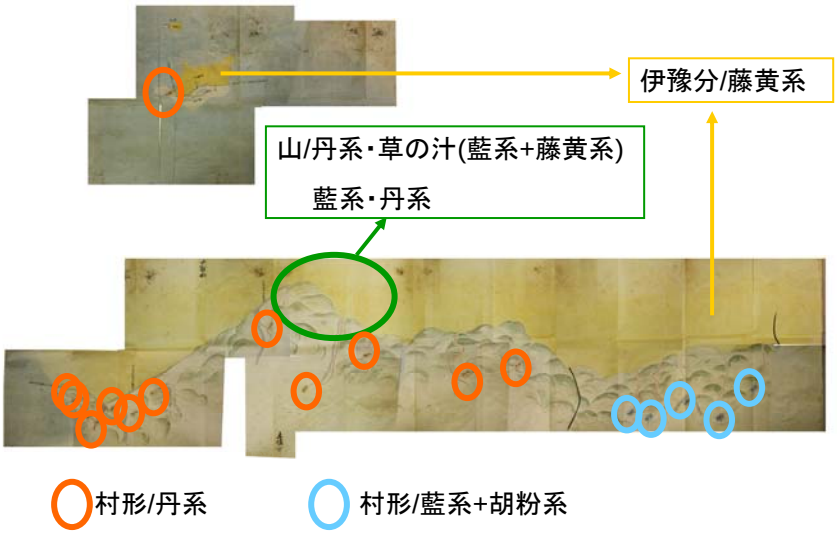
No.27：土佐国境阿波国端絵図



No.28：土佐国境阿波国境裁廻絵図



No.29：伊予国江遣ス証文之縁絵図控



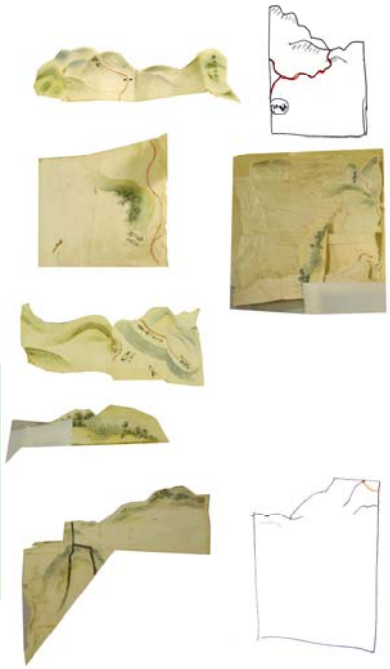
№34：土予国境図（断簡）

川/藍系

道/墨系

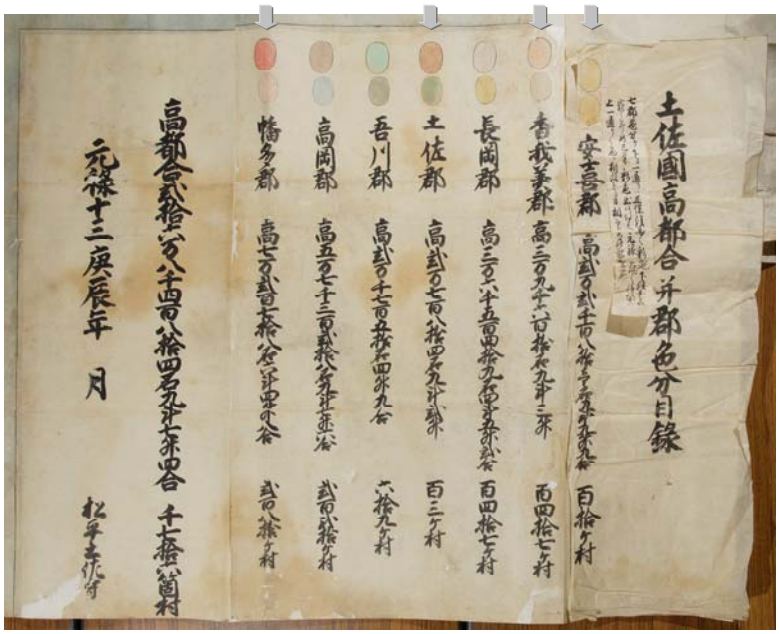
郡境/朱系

山/藍系
- 草の汁（藍系+藤黄系）
- 藤黄系
- 薄墨系
- 丹系+藤黄系

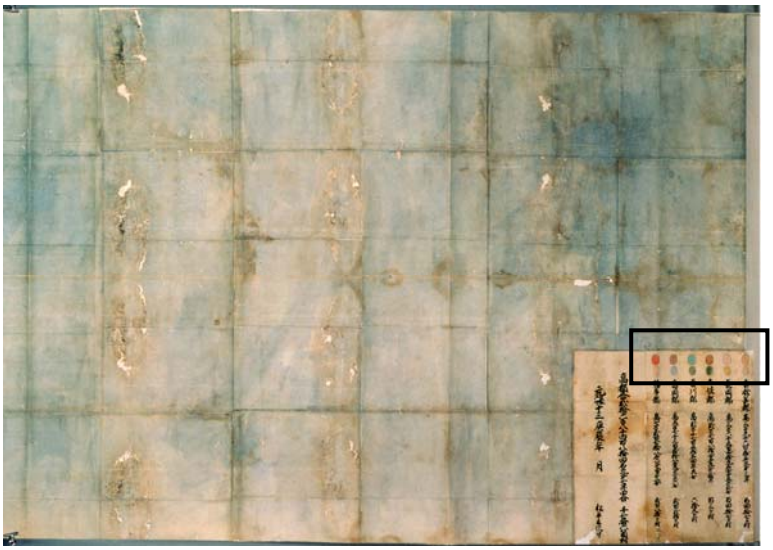


高知市民図書館元禄国絵図

凡例を中心とした顔料の報告



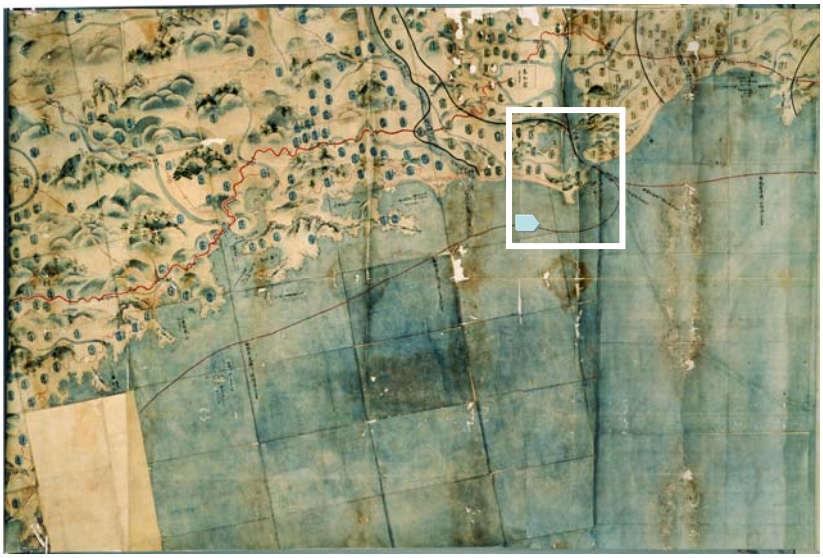
1-2土佐市民図書館元禄国絵図凡例



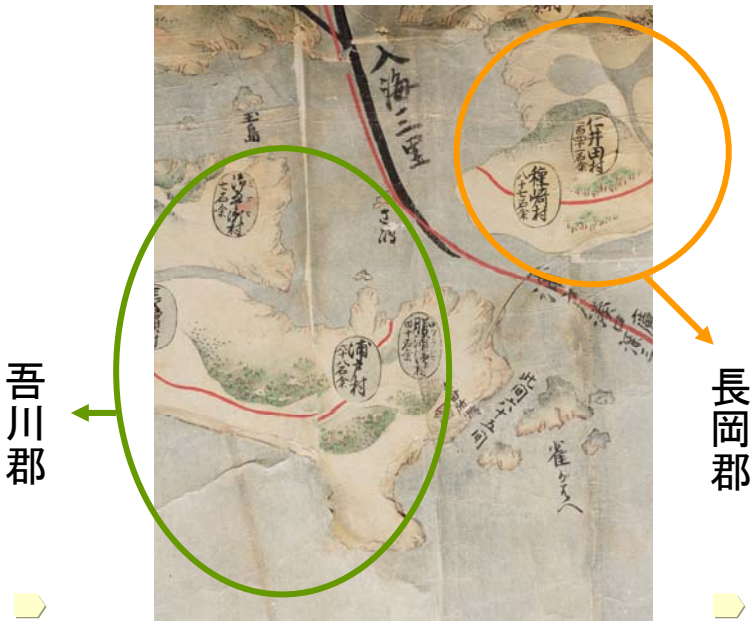
1-3 土佐市民図書館元禄国絵図1-9

朱系カ？	丹系＋胡粉系
臙脂系＋胡粉系	藍系＋胡粉系
白緑系＋胡粉系カ？	藍系＋藤黄系＋弁柄カ？
弁柄系＋胡粉系カ？	白緑系
丹系＋胡粉系	丹系（少）＋藤黄系
丹系	丹系＋墨系＋藤黄系カ？
（藤黄系＋胡粉系）	（丹系＋藤黄系）

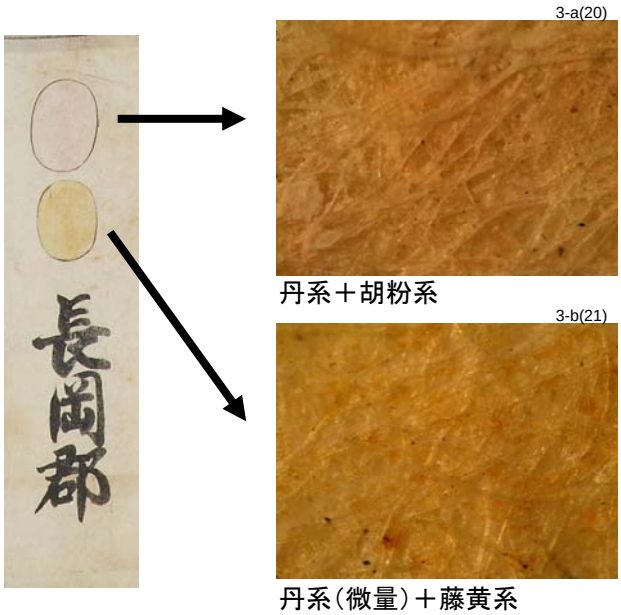
1-4 土佐市民図書館元禄国絵図1-9部分



1-5 土佐市民図書館元禄国絵図1-5

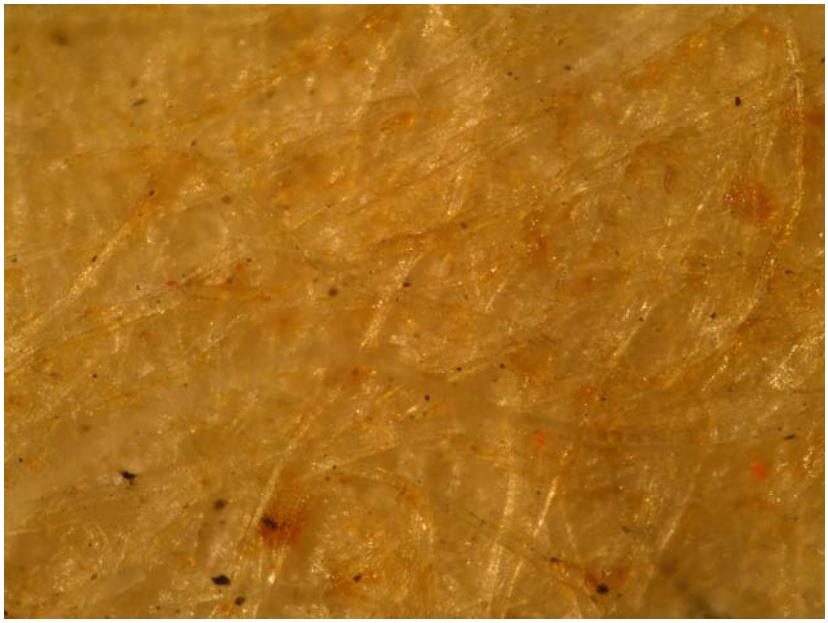


1-6土佐市民図書館元禄国絵図1-5部分



1-7 土佐市民図書館元禄国絵図長岡郡

1-8 土佐市民図書館元禄国絵図3-a(20)

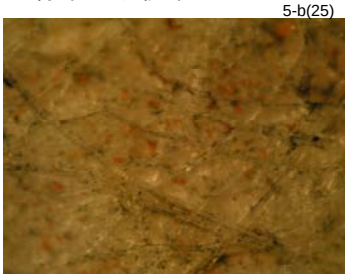


1-9 土佐市民図書館元禄国絵図3-b(21)

5-a(24)

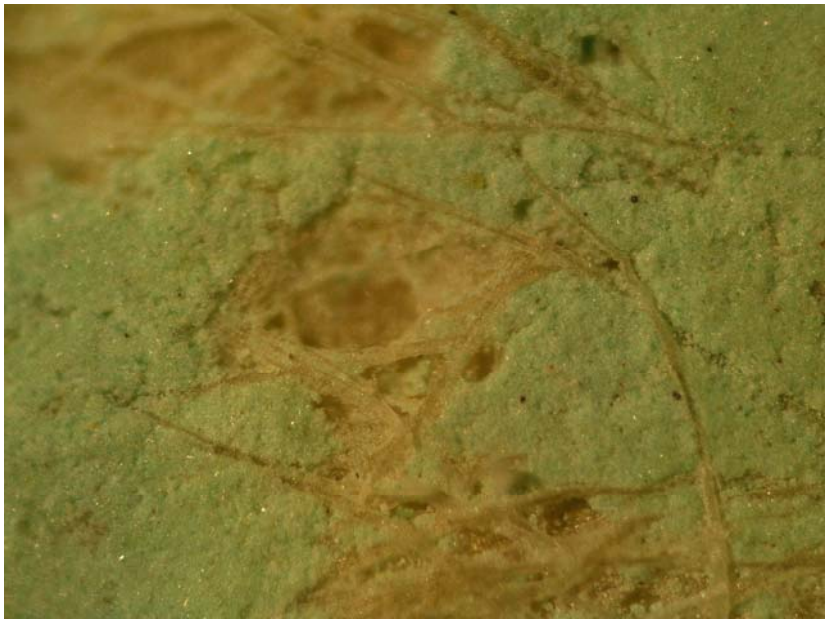
白緑系＋胡粉系ヵ？

5-b(25)

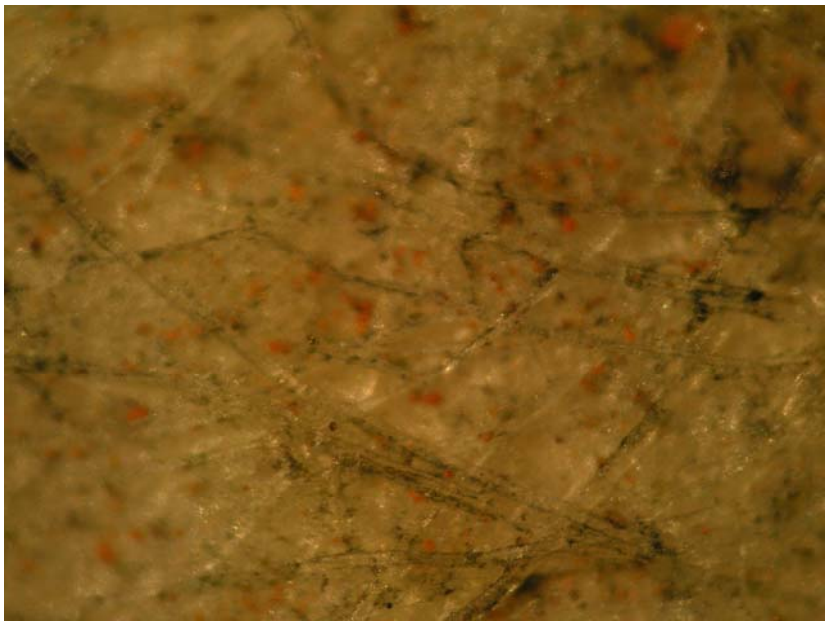


草の汁(藍系＋藤黄系）＋弁柄系ヵ？

1-10 土佐市民図書館元禄国絵図吾川郡



1-11 土佐市民図書館元禄国絵図5-a(24)



1-12 土佐市民図書館元禄国絵図5-b(25)

1-13 土佐市民図書館元禄国絵図1-5

1-14 土佐市民図書館元禄国絵図高岡郡

6-a(26)

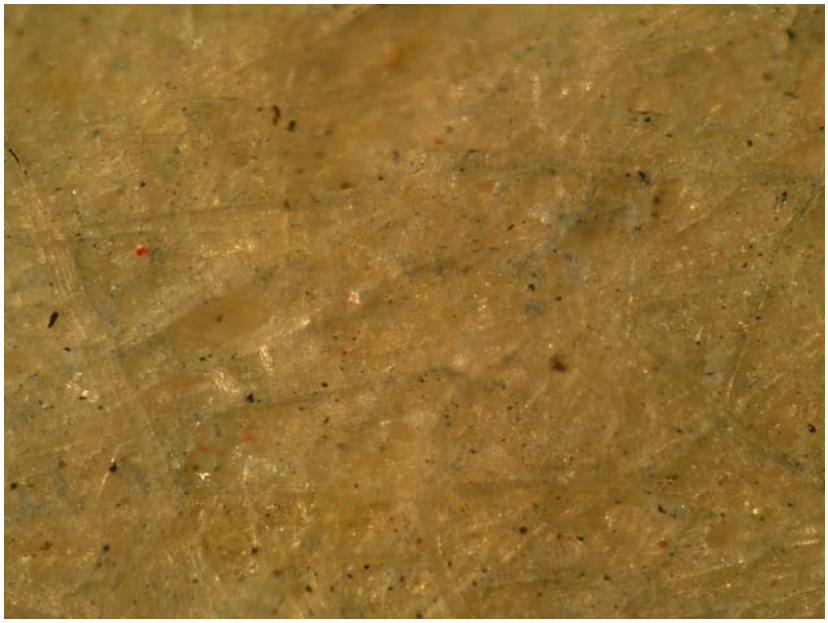
臙脂系＋胡粉系

6-b(27)

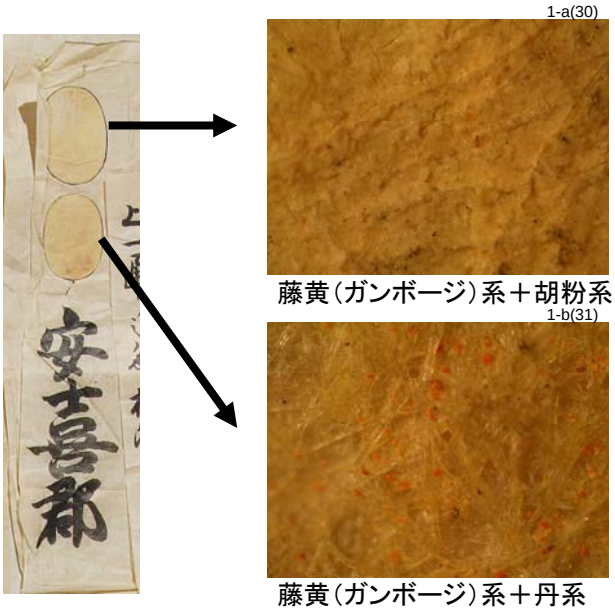
藍系＋胡粉系

1-15 土佐市民図書館元禄国絵図高岡郡

1-16 土佐市民図書館元禄国絵図6-a(26)



1-17 土佐市民図書館元禄国絵図6-b(27)



1-18 土佐市民図書館元禄国絵図安喜郡

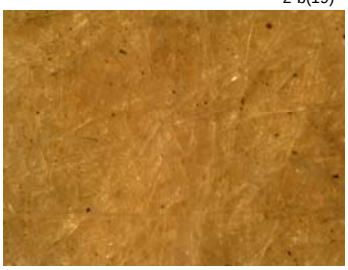
1-19 土佐市民図書館元禄国絵図1-a(30)

1-20 土佐市民図書館元禄国絵図1-b(31)

2-a(18)

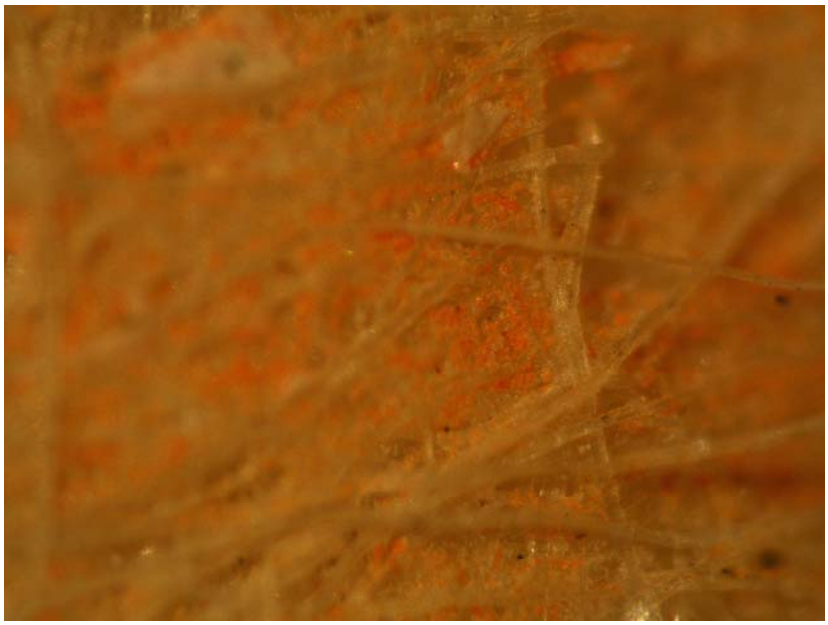
丹系

2-b(19)

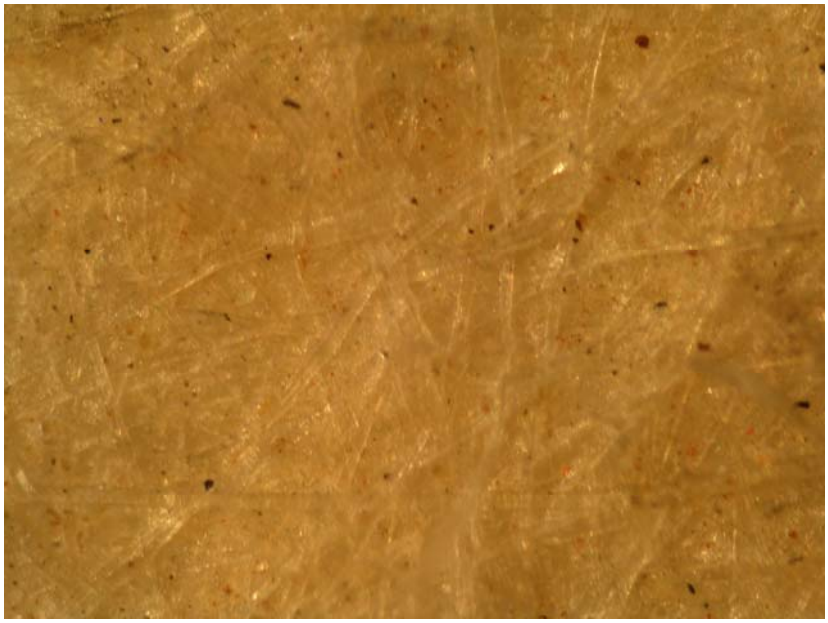


丹系＋墨系＋藤黄（ガンボージ）系ヵ？

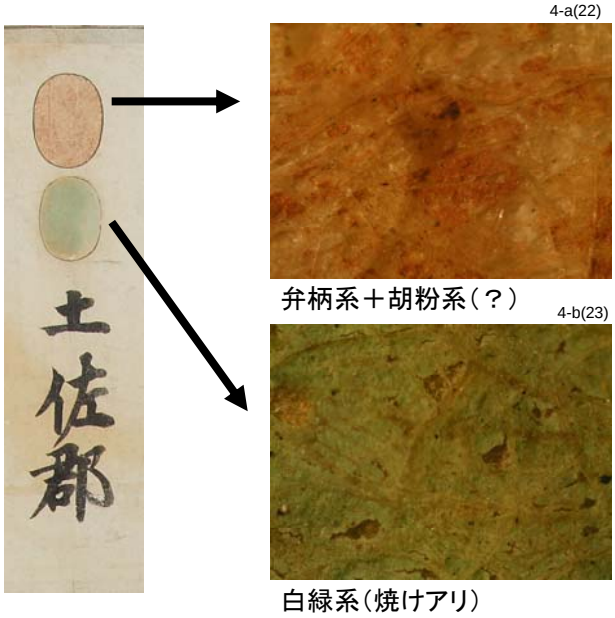
1-21 土佐市民図書館元禄国絵図香我美郡



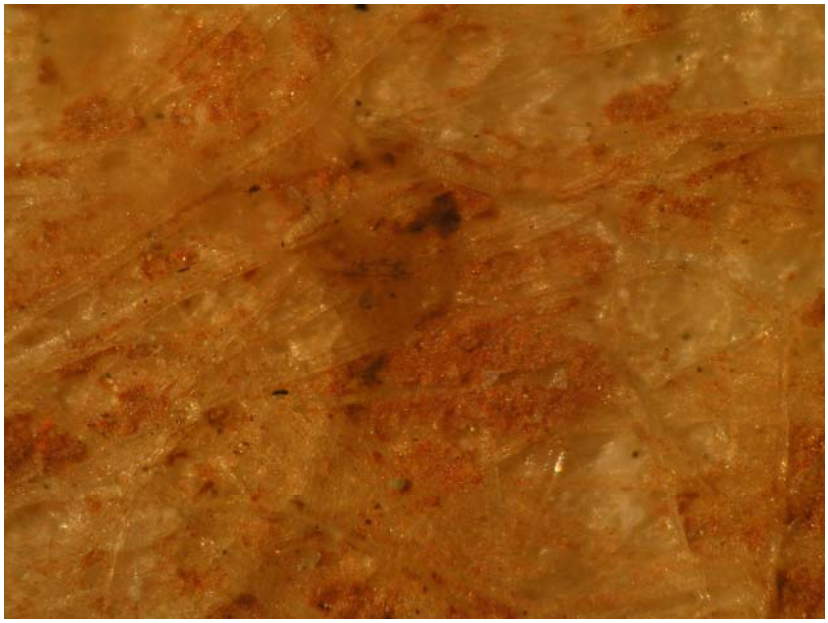
1-22 土佐市民図書館元禄国絵図2-a(18)



1-23 土佐市民図書館元禄国絵図2-b(19)



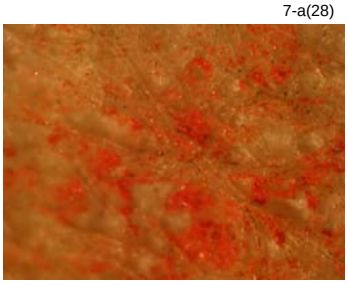
1-24 土佐市民図書館元禄国絵図土佐郡



1-25 土佐市民図書館元禄国絵図4-a(22)

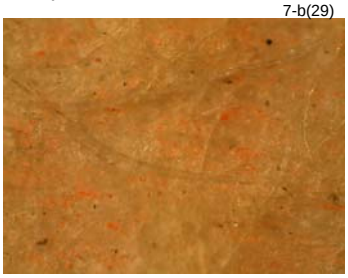
1-26 土佐市民図書館元禄国絵図4-b(23)

7-a(28)



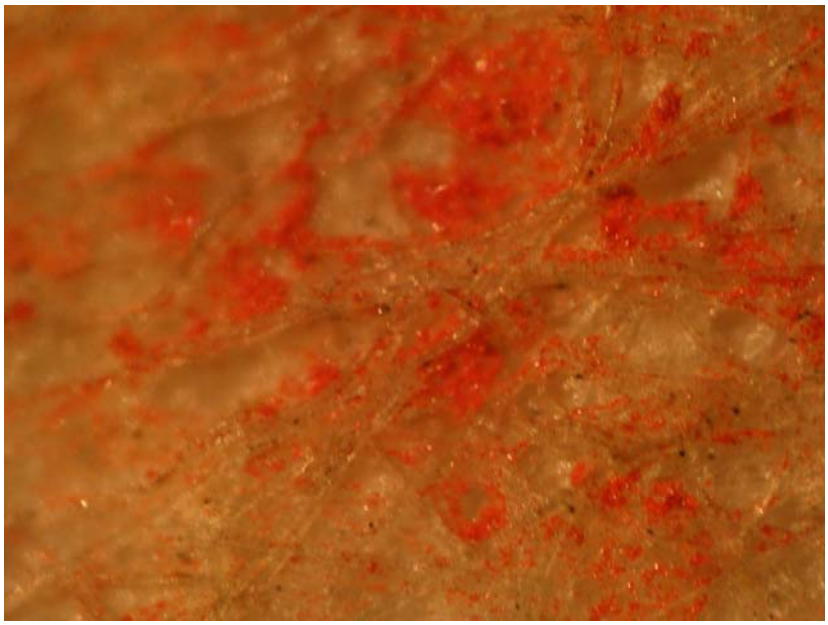
朱系ヵ？

7-b(29)

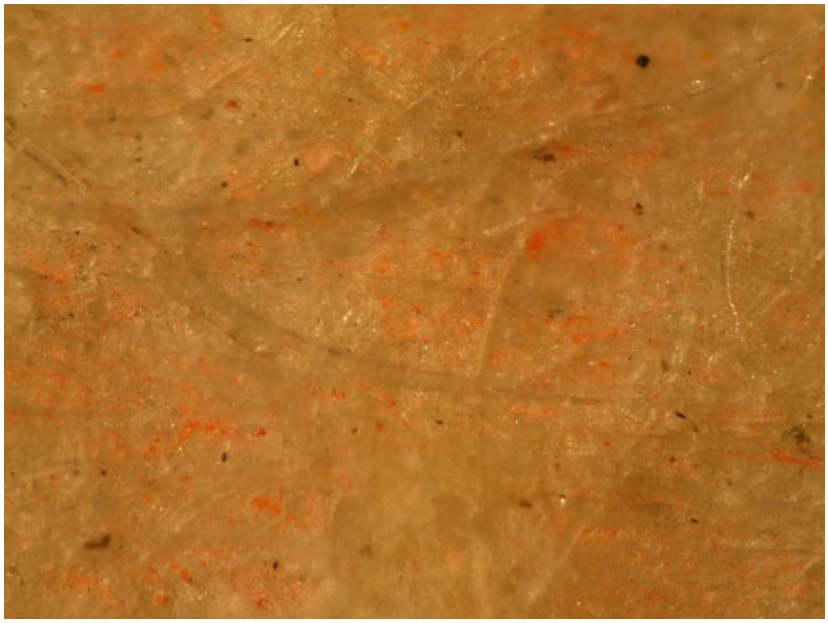


丹系＋胡粉系

1-27 土佐市民図書館元禄国絵図幡多郡



1-28 土佐市民図書館元禄国絵図7-a(28)



1-29 土佐市民図書館元禄国絵図7-b(29)